令和４年度

教　育　計　画

（シラバス）

滋賀県県立看護専門学校

１年

目　　次

各分野の教育目的と教育内容

1　基 礎 分 野　1

2　専門基礎分野　14

3　専 門 分 野　40

基　礎　分　野

１）科学的思考の基盤

授業科目	国語表現法	担当教員	三宅　えり	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	１．語彙の正確な意味や使い方を身につけ、日本語の構造や言葉の役割を知ることで国語力をより確実なものとする。 ２．文章の基本を学び論文の書き方の基礎を身につける。						

時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．国語表現法とは ２．文章の構成 １）効果的な構成方法 ２）語彙の正確な使い方 「事実」と「意見」「感想」の違い
６Ｈ	３．文章を書く目的と心構え ４．敬語の目的と方法 １）敬語の種類と語彙 ２）敬語の用法
４Ｈ	５．文章による表現力 １）文章・作文の基本 ２）原稿用紙の使い方 ６．小論文の書き方　　<u>演習</u> １）論文とは何か ２）論文を書く際の注意 ３）資料の読解 ４）注、引用、文献表の付け方 ５）論文作成
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	

１）科学的思考の基盤

授業科目	生活行動科学	担当教員	西岡　靖貴	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	人間が活動する際、身体への負荷を軽減させ目的行動を合理的に行うことができるように、看護行為の安全性や安楽の視点、科学的で効率のよい合理的な姿勢で動作を行うための基礎知識を理解する。						

時　間	学　習　内　容
１２Ｈ	１．生活行動科学とは ２．力学の話（演習） １）力の「効果的な力の合わせ方」 ２）てこの原理 ３）力のモーメント ４）摩擦力・摩擦の法則 ５）重心について ６）人間の動作と物理学との関係 ・ボディメカニクス ・姿勢と動作 ・体位変換
１０Ｈ	３．圧力の原理と実際（演習） １）気圧とは ２）圧力と気体 ・ボイル・シャルルの法則 ３）流体の圧力 ・血圧について ４）吸引の原理 ・サイフォンの原理
７Ｈ	４．熱現象の原理（演習） １）温度変化と比熱 ２）熱エネルギー ３）熱計算 ４）熱の移動
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	完全版　ベッドサイドを科学する　－看護に生かす物理学－　（Gakken）

１）科学的思考の基盤

授業科目	論理学	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	論理的思考の必要性とその基本的知識を学び、すじみちを立てて、物事を考える姿勢を養う。						
時　間	学　習　内　容						
１０Ｈ	１．論理学とは １）論理的に考えるとは ２）クリティカルシンキングとは ２．クリティカル思考 １）「事実」と「意見」の区別 ２）「理由・根拠」と「主張・結論」の区別 ３）推論の妥当性						
１０Ｈ	３．根拠としての事実 １）事実検討 ２）スキーマについて ３）偏った事実						
９Ｈ	４．要約と批判 １）議論の分析　<u>演習</u> ２）虚偽論の分類						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	クリティカル進化論　　（北大路書房）						

１）科学的思考の基盤

授業科目	リフレクション	担当教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験	—	必修・選択別		必修	
学習目標	リフレクションプロセスを学習し、経験の意味づけができる。また、経験から得た価値を次の看護実践に活かすことが理解できる。						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．リフレクションとは ２．看護にとってリフレクションの意義						
６Ｈ	３．Gibbsのリフレクションのサイクル １）説明 ２）感情 ３）経験についての最初の評価 ４）批判的分析 ５）まとめ ６）最終評価と行動計画						
７Ｈ	４．リフレクションスキルとトレーニング　<u>演習</u> １）自己への気づき ２）描写 ３）批判的思考 ４）総合 ５）評価						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他							

1）科学的思考の基盤

授業科目	情報リテラシー	担当教員	木村　聡	単位数	2	時間数	４５
				受講年次・時期		１年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験	—	必修・選択別		必修	
学習目標	１．情報科学の基礎理論や、その技術側面であるコンピュータに関する知識を深め、それを看護の考え方や看護情報の処理診断に役立てる。 ２．さまざまな情報を活用するうえで情報倫理や安全性について理解できる。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
６Ｈ	１．コンピュータと情報 １）動作原理と計算機モデル ２）情報と通信の理論 ３）AI	６Ｈ	６．ワードプロセッサの活用　<u>演習</u> １）文書についての考え方 ２）複合文書の作成
４Ｈ	２．ハードウェアとソフトウェア １）各種データの特徴とファイル ２）ＯＳとアプリケーション	６Ｈ	７．プレゼンテーションソフトの活用 <u>演習</u> １）プレゼンテーションの計画 ２）スライドのデザイン
６Ｈ	３．インターネット １）成り立ち、プロトコル ２）マルウェアとセキュリティ ３）ネットリテラシー ４）電子メール	２Ｈ	８．医療と情報 １）医療情報の電子化、情報管理 ９．情報倫理 １）個人情報保護 ２）セキュリティ対策
８Ｈ	４．表計算ソフトの活用　<u>演習</u> １）セルと式 ２）関数 ３）グラフ		
６Ｈ	５．統計学　<u>演習</u> １）母集団と標本、特徴を表す値 ２）標準化、確率密度関数 ３）相関		
試験１Ｈ			

成績評価方法	課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	教育学	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	教育の意義や基本構造を中心に教育の基本的な事項を理解する。現実に行われている教育活動に目を向け、教育の現状と今後あるべき方法を模索する。自分の教育観と他者の教育観を理解する力をつけ、日常の学びの場面や対人関係場面で活かすことを目指す。						

時　間	学　習　内　容		
４Ｈ	１．教育とは何か １）人間形成としての教育 ２）素質と環境 ３）学習・教育の必要性と可能性 ４）意図的教育と無意図的教育 ２．教育の本質 １）成長・発達の援助 ２）文化の伝達 ３）良心の覚醒	６Ｈ	５．教育の歴史的展開 １）日本の教育的思想 ２）日本の近代教育思想 ６．学校教育の内容
８Ｈ	３．教育の目的 １）一般的性格 ２）わが国の教育目的 ３）これからの学校教育の目的・目標 ４．欧米の教育思想の展開 １）コメニウス ２）ロック ３）ルソー ４）ペスタロッチ ５）フレーベル ６）コンドルセ ７）オーエン ８）デューイ	４Ｈ ７Ｈ	７．教育の方法 １）構造的展開 ２）自発性・保護、抑制、助成 ３）直観の原理 ４）表現の原理 ８．生涯学習論 ９．社会教育の課題 １０．日本の教育制度
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	社会学	担当教員	須羽　新二	単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	１．社会のしくみ、家族、集団、組織とは何かを学び、個と社会との関係を理解する。 ２．物事を社会の中で多角的、批判的に見る社会学的なとらえ方を学び、医療・看護に関する社会現象を理解する。						

時　間	学　習　内　容		
１０Ｈ	１．社会学の基礎概念 １）個人と社会 ２）行為、社会行為 ３）相互行為、社会関係、地位-役割 ４）集団、地域社会、組織ネットワーク ５）制度、全体社会、グローバル ６）社会変動とグローバリゼーション	３Ｈ	４．保健医療と社会学 １）公衆衛生と社会医学 ２）社会システムとしての医療
４Ｈ	２．社会学的視点とモデル １）合意とコンフリクト ２）構造と解釈	４Ｈ	５．健康・病気の社会的格差 １）健康病気の社会格差の諸相 ２）社会格差による健康格差発生のメカニズム ３）社会格差是正の取り組み
８Ｈ	３．家族の基本概念 １）ライフコースの変化 ２）家族の発達段階と発達課題 ３）家族と社会 ４）家族と保健医療 ５）性・ジェンダー ６）高齢者と家族		
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	社会学　（医学書院）

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	文化人類学	担当教員	横田　祥子	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					

学習目標	１．文化人類学における社会や文化の捉え方、考え方の学習を通して、人やそこに暮らす生活様式、個人と社会のつながりについて理解できる。 ２．世界の諸文化と自分の所属する文化を相対化し、文化の多様性が理解できる。
時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．文化人類学を学ぶ意義
２Ｈ	２．人間と文化 １）人種と民族と文化 ２）国家と民族と文化
２Ｈ	３．人間関係と社会 １）個人と社会 ２）家族 ３）家族をこえたつながり
２Ｈ	４．人生と通過儀礼 １）通過儀礼とは ２）儀礼の構造
２Ｈ	５．生活と文化 １）農耕、狩猟、経済 ２）日常生活の中の信仰
４Ｈ	６．生命・医療を文化人類的視点で捉える １）文化と身体観 ２）文化と病気観 ３）文化と病気治療 ４）死の考え方
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	文化人類学　（医学書院）

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	心理学	担当教員	青山　巧	単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	人間の心理・行動の基礎にある原理を学び自己及び対象を多角的に理解する能力を養う。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
６Ｈ	１．心理学とは ２．知覚 １）知覚の成立条件 ２）知覚の異常	６Ｈ	５．ストレスとは １）ストレスのメカニズム ２）喪失体験からの回復プロセス ６．アサーショントレーニング
６Ｈ	３．記憶 １）記憶とは ２）忘却の心理 ３）記憶の変化と工夫 ４）記憶障害 ４．思考・想像・言語 １）思考作用 ２）思考力の発達 ３）想像性 ４）言語の習得と機能	６Ｈ ５Ｈ	７．精神分析的心理療法 ８．認知行動療法 ９．集団心理 10．カウンセリング １）カウンセリングとは ２）面接技法
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業評価の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	コミュニケーション英語	担当教員	石田　法雄	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	１．英会話の基礎知識を学び、日常の英会話や医療現場でよく使う英会話ができる。 ２．看護を行う上で必要な情報を得るための基礎的な医学英語を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１０Ｈ	１．英会話　<u>演習</u> １）読解 ２）ヒアリング ３）日常会話						
１０Ｈ	２．医学英単語						
９Ｈ	３．看護文献・医療関係のニュース等について読解						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験、課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他							

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	中国語 ポルトガル語	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		選択	
		―					

学習目標	**〈中国語〉** 社会体制の異なる隣国の文化や社会事情を知り、日本語と比較しながら、中国語の基本的な文法を学び、初歩の読本を通して初歩的な読解力や簡単な会話ができる能力を養い、自国・自国語を見つめ直す機会にする。 **〈ポルトガル語〉** ポルトガル語の基本文法を学び、初級レベルの読本の読解力とポルトガル語での簡単な会話ができる能力を養うとともに、ポルトガル語文化圏の諸事情を理解する。
時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．中国語圏、ポルトガル語文化圏の事情を概観する。
４Ｈ	２．基礎文法
４Ｈ	３．日常生活で用いられる標準的な慣用表現
４Ｈ	４．基礎的な文型で適切な文章表現　<u>演習</u>
４Ｈ	５．中国語、ポルトガル語の聴講
４Ｈ	６．構文の理解
５Ｈ	７．日常あいさつ　（会話）　　<u>演習</u>
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験、課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	ポ： 中：ジョイフル中国語　（郁文堂）

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	身体表現	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・中期	
授業形式	講義・実技	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	健康づくりの一環として、運動を行うことの楽しさやリラクゼーション及びその効果について理解する。また、身体活動を取り入れた表現方法も身につける。						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．ガイダンス ・健康と体力 ・エアロビクス　基本の動き（ベース）　実技						
１１Ｈ	２．健康づくりとしての運動 ・エアロビクス（練習）、ストレッチ　実技 ・ダンス　基本の動き（ベース）　実技 ・ダンス（練習）、ヨガ　実技 ３．表現・発表（チームごと）						
試験２Ｈ							
成績評価方法	筆記試験、実技試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他							

２）人間と生活、社会の理解

授業科目	人間関係論	担当教員	中村 好孝	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次･前･中期	
授業形式	講義・演習	実務経験	—	必修・選択別		必修	
学習目標	自己の対人関係のあり方に気づき、人間関係のもち方・つくり方・継続の仕方について学び、人間関係はいかにあるべきかを理解する。						

時　間	学　習　内　容
１２Ｈ	１．人間観 ２．自己を知る（自己開示、ジョハリの窓、シェアリング等） ３．対人認知（構成的グループエンカウンター）
８Ｈ	４．現代社会の人間関係演習 ５．人間関係のひずみ
８Ｈ	６．人間関係の改善 ７．人間関係の実際（カウンセリングを含む） １）エゴグラム、交流分析 ２）自己意識・自尊感情 ３）とらわれ・かまえの心理 ４）アサーション権
１Ｈ	８．看護における人間関係
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験、課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	

専　門　基　礎　分　野

1）人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅰ （人体の構造）	担当教員	伊藤　智美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
６Ｈ	１．人体の素材としての細胞・組織 １）細胞の構造 ２）細胞を構成する物質と エネルギーの生成 ３）細胞膜の構造と機能 ４）細胞の増殖と染色体 ５）分化した細胞がつくる組織	４Ｈ	４．自律神経系による調整 １）自律神経系の機能 ２）自律神経系の構造 ３）自律神経の神経伝達物質と受容体
４Ｈ	２．構造と機能からみた人体 １）構造からみた人体 ２）機能からみた人体 ３）体液とホメオスタシス ・体液の区分と水分 ・電解質と非電解質	２Ｈ	５．皮膚の構造と機能 ６．生体の防御機構 １）非特異的防御機構 ２）特異的防御機構(免疫系) ３）生体防御の関連臓器 ７．代謝と運動
４Ｈ	３．血液 １）血液の組成と機能 ２）赤血球 ３）白血球 ４）血小板 ５）血漿タンパク質 ６）血液型	２Ｈ	８．体温とその調節 １）体温 ２）体温の調節
		７Ｈ	９．男性の生殖器系 10．女性の生殖器系 11．受精と胎児の発生 12．成長と老化
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　解剖生理学　（医学書院） 系看　準拠　解剖生理学ワークブック　（医学書院）

1）人体の構造と機能

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目</td><td rowspan="2">解剖生理学Ⅱ
（呼吸・循環・体温・体液と電解質）</td><td rowspan="2">担当
教員</td><td rowspan="2">陣内　皓之祐
日村　好宏</td><td>単位数</td><td>1</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講年次・時期</td><td colspan="2">１年次・前期</td></tr>
<tr><td>授業形式</td><td>講　義</td><td colspan="2">実務経験
有</td><td colspan="2">必修・選択別</td><td colspan="2">必修</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="7">人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。</td></tr>
<tr><td>時　間</td><td colspan="7">学　習　内　容</td></tr>
<tr><td>９Ｈ

試験１Ｈ</td><td colspan="2">１．呼吸器の構造
１）呼吸器の構成
２）上気道
３）下気道と肺
４）胸膜・縦隔

２．呼吸
１）内呼吸と外呼吸
２）呼吸器と呼吸運動
３）呼吸気量
４）ガス交換とガスの運搬
５）肺の循環と血流
６）呼吸運動の調節</td><td>１４Ｈ

６Ｈ</td><td colspan="4">３．循環器系の構成

４．心臓の構造

５．心臓の拍出機能
１）刺激伝道系
２）心臓の収縮

６．末梢循環器系の構造
１）血管の構造
２）肺循環の血管
３）全身の動脈
４）全身の静脈

７．リンパとリンパ管

解剖見学（滋賀医科大学）</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td colspan="7">筆記試験
（授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）</td></tr>
<tr><td>参考文献他</td><td colspan="7">系看　専門基礎分野　解剖生理学　（医学書院）</td></tr>
</table>

1）人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅲ （消化・排泄・内分泌・腎泌尿）	担当教員	中村　一郎 陣内　皓之祐	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験	有	必修・選択別		必修	
学習目標	人体の発生・構造について理解し、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						

時　間	学　習　内　容		
１５Ｈ	１．口・咽頭・食道の構造と機能 ２．腹部消化管の構造と機能 １）胃の構造と機能 ２）小腸の構造と機能 ３）大腸の構造と機能 ３．膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 １）膵臓の構造と機能 ２）肝臓の構造と機能 ３）胆嚢の構造と機能 ４．腹膜	１４Ｈ	５．内分泌系による調節 １）内分泌とホルモン ６．全身の内分泌腺と内分泌細胞 １）視床下部 - 下垂体系 ２）甲状腺と副甲状腺 ３）膵臓 ４）副腎 ５）性腺 ７．ホルモン分泌の調整 ８．腎臓の構造と機能 ９．糸球体の構造と機能 10．尿細管の構造と機能 11．傍糸球体装置 12．排尿路 １）排尿路の構造 ２）尿の貯蔵と排尿 13．体液の調節 １）水の出納 ２）脱水 ３）電解質の異常 ４）酸塩基平衡
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　　解剖生理学　（医学書院）

1）人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅳ （脳神経・運動・感覚）	担当教員	陣内　皓之祐 琴浦　良彦	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験	有	必修・選択別		必修	
学習目標	人体の発生・構造について理解し、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						

時　間	学　習　内　容		
１７Ｈ	１．神経系の構造と機能 １）神経細胞と神経組織 ２．脊髄と脳 １）脊髄の構造と機能 ２）脳の構造と機能 ３．脊髄神経と脳神経 １）脊髄神経の構造と機能 ２）脳神経の構造と機能 ４．脳の高次機能 ５．運動機能と下行伝導路 １）運動ニューロン ２）下行伝導路 ６．感覚機能と上行伝導路 １）体性感覚 ２）上行伝導路 ７．眼の構造と視覚 ８．耳の構造と聴覚・平衡覚 ９．味覚とに嗅覚	１２Ｈ	10．骨格 11．骨の連結 １）関節 12．骨格筋 １）骨格筋の構造 13. 体幹の骨格と筋 14．上肢の骨格と筋 15．下肢の骨格と筋 16．頭頸部の骨格と筋 17．筋の収縮
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　　解剖生理学　（医学書院）

1）人体の構造と機能

授業科目	臨床栄養	担当教員	木村 朋美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	人体を維持するための栄養素の種類とエネルギー代謝について学び、看護ににおける栄養摂取の促進、食事療法の基本を理解する。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．栄養とは １）栄養の意義 ２）栄養状態の評価・査定 ３）看護と栄養	１３Ｈ	６．栄養食事療法 １）栄養食事療法（消化器系疾患） ２）栄養食事療法（循環器系疾患） ３）栄養食事療法（腎疾患） ４）栄養食事療法（栄養代謝系疾患－糖尿病） ５）栄養食事療法（栄養代謝系疾患－高脂血症・高尿酸血症） ６）栄養食事療法（血液疾患一貧血） ７）栄養食事療法（腎臓疾患）
４Ｈ	２．栄養素の種類と働き １）糖質 ２）脂質 ３）タンパク質・アミノ酸 ４）ビタミン		
２Ｈ	３．エネルギー代謝 １）エネルギーの供給 ２）エネルギー消費		
６Ｈ	４．ライフステージと栄養 １）乳児期 ２）幼児期 ３）学童期 ４）思春期・青年期 ５）成人期 ６）高齢期		
２Ｈ	５．臨床栄養 １）病院食の特徴 ２）種類		
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　栄養学　（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	病理学	担当教員	野田　秀樹	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	疾病を引き起こすさまざまな病変の基本的メカニズムについて理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	１．病理学とは ２．病因論 ３．細胞・組織の障害と修復 １)細胞の変性 ２)壊死 ３)萎縮 ４)肥大と過形成 ５)化生 ４．循環障害 １）循環血液量の異常 ２）閉塞性の循環障害 ３）側副循環 ４）リンパの循環障害 ５．炎症 １）炎症の各型 ６．感染症 １）感染と防衛機構				７．代謝障害 １）物質沈着 ２）脂質代謝異常 ３）タンパク質代謝異常 ４）糖質代謝異常 ８．老化と死 ９．先天異常 10．腫瘍 １）腫瘍の定義と分類 ２）腫瘍の発生病理 ３）転移と進行度 ４）腫瘍の診断と治療		
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門基礎分野　病理学　　（医学書院）						

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅰ （呼吸・循環）	担当教員	田久保 康隆	単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
	循環器系		呼吸器系
８Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 １）虚血性心疾患 ２）心不全 ３）血圧異常 ４）不整脈 ５）弁膜症 ６）心筋疾患 ７）先天性心疾患 ８）動脈系疾患	８Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 １）上気道・気管支の疾患 （１）気管支炎 （２）気管支喘息 ２）肺の疾患 （１）肺炎（細菌性、ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ、間質性） （２）肺結核 （３）肺気種 （４）呼吸不全 （５）肺腫瘍 ３）胸膜の疾患 （１）気胸
２Ｈ	２．主な検査 １）心電図 ２）血液検査 ３）心臓カテーテル法	２Ｈ	２．主な検査 １）画像診断 ２）内視鏡検査 ３）呼吸機能検査 ４）血液検査 ５）痰検査 ６）生検
４Ｈ	３．主な治療 １）ＰＴＣＡ ２）薬物療法 ３）安静療法 ４）食事療法 ５）手術療法 （１）ペースメーカー植込術 （２）バイパス術 （３）弁置換術 （４）人工血管置換術	５Ｈ	３．主な治療 １）酸素療法 ２）吸入療法 ３）呼吸理学療法 ４）薬物療法 ５）化学療法 ６）放射線療法 ７）胸腔ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ ８）手術療法 （１）開胸術と胸腔鏡手術 （２）肺切除術
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学　（３）　循環器　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学　（２）　呼吸器　（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目</td><td rowspan="2">疾病治療論Ⅱ
（消化・内分泌）</td><td rowspan="2">担当
教員</td><td rowspan="2"></td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講年次・時期</td><td colspan="2">２年次・前期</td></tr>
<tr><td>授業形式</td><td>講　義</td><td colspan="2">実務経験
有</td><td colspan="2">必修・選択別</td><td colspan="2">必修</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="7">系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。</td></tr>
<tr><td>時　間</td><td colspan="7">学　習　内　容</td></tr>
<tr><td>８Ｈ

２Ｈ</td><td colspan="2">消化器系
１．代表的疾患の病態生理
１）食道の疾患
（１）食道癌
２）胃・十二指腸の疾患
（１）胃・十二指腸潰瘍
（２）胃癌
３）腸および腹膜の疾患
（１）腸炎
（２）イレウス（腸閉塞症）
（３）腹膜炎
（４）腸管ポリープ
（５）結腸癌・直腸癌
４）肝臓・胆嚢の疾患
（１）肝硬変症
（２）肝癌
（３）胆石症
（４）胆嚢癌・胆管癌
５）膵臓の疾患
（１）膵炎
（２）膵癌

２．主な検査
１）肝機能検査
２）放射線診断or画像診断
３）内視鏡検査
４）腹部超音波検査
５）肝生検</td><td>４Ｈ</td><td colspan="4">３．主な治療
１）食事療法
２）薬物療法
３）安静療法
４）内視鏡的治療
５）塞栓療法
６）手術療法
（１）開腹術と腹腔鏡下手術
（２）胃切除術
（３）結腸切除術
（４）直腸切除・人工肛門造設術</td></tr>
</table>

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅱ （消化・内分泌）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					

時　間	学　習　内　容
	内分泌・代謝系
８Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 内分泌疾患 １）副腎皮質疾患 （１）クッシング症候群 ２）甲状腺疾患 （１）甲状腺機能亢進症 （２）甲状腺機能低下症 代謝疾患 １）糖尿病 ２）痛風 ３）高脂血症 ４）メタボリックシンドローム
２Ｈ	２．主な検査 １）血液検査（ホルモン定量） ２）尿検査 ３）負荷試験 ４）画像診断
５Ｈ	３．主な治療 １）食事療法 ２）運動療法 ３）薬物療法
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看 専門Ⅱ　成人看護学（５）　消化器　（医学書院） 系看 専門Ⅱ　成人看護学（６）　内分泌・代謝　（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

<table>
<tr><td rowspan="2">授業科目</td><td rowspan="2">疾病治療論Ⅲ
（脳神経・運動）</td><td rowspan="2">担当
教員</td><td rowspan="2"></td><td>単位数</td><td>１</td><td>時間数</td><td>３０</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講年次・時期</td><td colspan="2">２年次・前期</td></tr>
<tr><td>授業形式</td><td>講　義</td><td colspan="2">実務経験
有</td><td colspan="2">必修・選択別</td><td colspan="2">必修</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="7">系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。</td></tr>
<tr><td>時　間</td><td colspan="7">学　習　内　容</td></tr>
<tr><td>６Ｈ

４Ｈ</td><td colspan="2">脳神経系
１．代表的疾患の病態生理
１）脳血管障害
（１）脳梗塞
（２）脳内出血
（３）クモ膜下出血
２）変性疾患
（１）パーキンソン病
３）神経・筋疾患
（１）筋萎縮性側索硬化症
４）感染症
（１）髄膜炎
５）脳腫瘍
６）頭部外傷
７）てんかん※精神看護学援助論Ⅰ
８）認知症　※精神看護学援助論Ⅰ

２．主な検査
１）血管造影
２）ＣＴ
３）ＭＲＩ
４）腰椎穿刺
５）各種反射
６）筋電図
７）脳波</td><td>４Ｈ</td><td colspan="4">３．主な治療
１）薬物療法
２）リハビリテーション
３）放射線療法
４）手術療法
（１）開頭術
①クリッピング
②腫瘍摘出術
（２）穿頭術
①血腫除去術
（３）シャント</td></tr>
</table>

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅲ （脳神経・運動）	担当 教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験 有		必修・選択別		必修	

時　間	学　習　内　容
	運動器系
６Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 １）骨折 ２）先天性疾患 ３）脱臼 ４）炎症性疾患 （１）骨髄炎 （２）変形性膝関節炎 （３）慢性関節リウマチ ５）骨腫瘍 ６）脊椎神経疾患 （１）脊髄損傷 （２）脊髄腫瘍 （３）腰椎椎間板ヘルニア ７）代謝性疾患 （１）骨粗鬆症
４Ｈ	２．主な検査 １）画像検査（Ｘ線、ＣＴ、ＭＲＩ、超音波検査） ２）関節造影、脊髄造影検査 ３）骨密度検査 ４）関節鏡 ５）関節液検査
５Ｈ	３．主な治療 １）保存療法 （１）ギプス包帯法 （２）副子 （３）牽引 （４）関節穿刺 ２）理学療法 ３）手術療法 ４）義肢と装具
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（７）　脳神経　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（10）　運動器　（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅳ （血液･造血･ｱﾚﾙｷﾞｰ･膠原病･感染症）	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
	血液・造血器系		アレルギー・膠原病				
６Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 １）赤血球系の疾患 （１）貧血 ２）白血球系の疾患 （１）白血病 ３）リンパ系疾患 （１）悪性リンパ腫 （２）ＨＩＶ感染症とエイズ ４）異常タンパク血症 （１）多発性骨髄腫 ５）出血性疾患 （１）血友病 （２）播種性血管内凝固症候群	７Ｈ	１．代表的疾患の病態生理 １）アトピー性皮膚炎 ２）薬物のアレルギー ３）アナフィラキシー ４）関節リウマチ ５）全身性エリテマトーデス ６）全身性硬化症 ７）皮膚筋炎 ８）膠原病類縁疾患				
２Ｈ	２．主な検査 １）末梢血検査 ２）骨髄穿刺・生検 ３）出血傾向の検査 ４）リンパ節生検	２Ｈ	２．主な検査 １）血液検査 ２）免疫学的検査 ３）画像検査				
４Ｈ	３．主な治療 １）輸血療法 ２）化学療法 ３）薬物療法 ４）放射線療法 ５）移植療法	２Ｈ	３．主な治療 １）薬物療法 （１）ステロイド･非ステロイド薬 （２）抗アレルギー薬 （３）免疫抑制剤 （４）抗リウマチ薬 ２）免疫吸着療法・血漿交換療法				

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅳ （血液･造血･ｱﾚﾙｷﾞｰ･膠原病･感染症）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					

時　間	学　習　内　容
６Ｈ	感染症 １．感染症とは 　１）感染症とは 　２）感染が成立する条件 　３）感染症の病態生理・症状 ２．感染症の診断 　１）感染臓器の決定 　２）病原微生物の決定 　３）主な検査 ３．感染症の治療 　１）抗菌薬 　２）その他 ＊下記感染症については、各疾病治療論に含まれる ４．疾患の理解 　・上気道感染 　・下気道感染 　・心血管系感染症 　・菌血症・肺血症 　・消化器感染症 　・肝胆道系感染症 　・尿路感染症・性感染症 　・皮膚軟部組織感染症 　・真菌感染症 　・寄生虫感染症 　・HIV感染症、日和見感染 　・多剤耐性菌感染症
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（４）　血液・造血器　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（11）　アレルギー・膠原病・感染症　（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅴ （感覚、腎泌尿、生殖）	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
時　間	学　習　内　容						

時間	学習内容	時間	学習内容
６Ｈ	腎泌尿器系 １．代表的疾患の病態生理 １）腎不全 ２）糸球体腎炎 ３）ネフローゼ症候群 ４）尿路感染症 ５）尿路結石症 ６）腎腫瘍 ７）膀胱腫瘍 ８）前立腺肥大 ９）前立腺癌	５Ｈ	女性生殖器 １．代表的疾患と病態生理 １）外陰の疾患 ２）膣の疾患 ３）子宮の疾患 ４）卵管の疾患 ５）卵巣の疾患 ６）月経異常、機能性子宮出血 ７）更年期障害 ８）乳房の疾患 ９）感染症
２Ｈ	２．主な検査 １）尿検査 ２）腎機能検査 ３）Ｘ線撮影 ４）超音波検査 ５）核医学的診断法 ６）ＣＴ、ＭＲＩ ７）経尿道的操作および内視鏡検査 ８）尿路水力学的検査 ９）生検	２Ｈ	２．主な診察・検査 １）診察 （問診、外診、内診、膣鏡診、直腸診） ２）頸管粘液検査 ３）細胞診 ４）卵管疎通性検査 ５）内視鏡検査 ６）ホルモン測定 ７）その他
２Ｈ	３．主な治療 １）食事療法 ２）薬物療法 ３）化学療法 ４）ホルモン療法 ５）安静療法 ６）透析療法 （１）血液透析 （２）腹膜透析 ７）手術療法 （１）経尿道的内視鏡手術 （２）砕石術 （３）尿路変更術 ８）腎移植	２Ｈ	３．主な治療 １）膣および子宮膣内洗浄 ２）放射線療法 ３）ホルモン療法 ４）化学療法 ５）手術療法 （１）子宮切除術（AT　VT　ET） （２）乳房切除術

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅴ （感覚、腎泌尿、生殖）	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験	有	必修・選択別		必修	

時　間	学　習　内　容		
３Ｈ	感覚器系 眼疾患 １．代表的疾患の病態生理 １）屈折の異常 ２）白内障・緑内障・網膜剥離 ３）眼底出血 ４）結膜炎 ２．主な検査 １）視力・屈折・眼圧検査 ２）眼底写真撮影 ３．主な治療 １）点眼法、洗眼法 ２）手術療法	２Ｈ	皮膚疾患 １．代表的疾患の病態生理 １）湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 ２）皮膚感染症 （一般細菌、真菌、ウイルス） ３）悪性腫瘍 ４）熱傷・凍傷 ２．主な検査 １）パッチテスト・皮内反応 ２）皮膚組織生検 ３．主な治療 １）外用療法 ２）光線療法 ３）レーザー照射
３Ｈ	耳、鼻、咽喉頭の疾患 １．代表的疾患の病態生理 １）中耳炎 ２）難聴 ３）メニエール病 ４）副鼻腔炎アレルギー性鼻炎 ５）上顎癌・喉頭癌 ２．主な検査 １）聴力検査 ２）平衡機能検査 ３）副鼻腔検査 ４）耳管通気検査 ３．主な治療 １）点耳および点鼻法 ２）噴霧・塗布・吸入法 ３）手術療法	２Ｈ 試験１Ｈ	歯・口腔の疾患 １．代表的疾患の病態生理 １）齲歯および歯髄炎、歯肉炎 ２）舌癌 ２．主な検査 １)口腔内検査 ２）歯科・口腔外科的検査 ３．主な治療 １）口腔清掃・歯石除去 ２）齲歯、歯髄炎の治療 ３）手術療法

成績評価方法	筆記試験 （授業科目評価要領、終了時試験実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ 成人看護学（１２）皮膚（１３）眼 （１４）耳鼻咽喉科（１５）歯・口腔（医学書院） 系看　専門Ⅱ 成人看護学（８）腎・泌尿器（９）女性生殖器（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	薬理学	担当教員	橋本　祐昌	単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理などについて理解する。						

時　間	学　習　内　容		
２Ｈ ３Ｈ	１．薬理学の基礎知識 １）薬理学とは ２）薬理作用 ３）薬物動態 ４）薬物中毒 ５）薬物管理 ６）チーム医療としての薬剤師の役割	２４Ｈ	２．抗感染症薬 ３．抗がん薬 ４．免疫治療薬 ５．抗アレルギー薬・抗炎症薬 ６．末梢神経系作用薬 ７．中枢神経系作用薬 ８．心臓血管系作用薬 ９．呼吸器系作用薬 １０．消化器系作用薬 １１．腎泌尿器・生殖器系作用薬 １２．皮膚作用薬 １３．物質代謝作用薬 １４．漢方薬 １５．消毒薬
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　薬理学（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	微生物学	担当教員	旦部　幸博	単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	感染症や伝染病の要因として、重要な位置を占める病原微生物の分類や特徴、消毒法、検査法に加え、感染症の変貌についての理解する。						

時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．微生物学とは １）微生物の位置づけ ２）微生物と人間 ３）微生物の歴史的変遷
８Ｈ	２．細菌の性質 ３．真菌の性質 ４．原虫の性質 ５．ウイルスの性質
４Ｈ	６．感染と感染症 １）感染のメカニズム ２）感染防御機構 ３）感染経路
４Ｈ	７．感染症の予防 １）滅菌と消毒 ２）ワクチンと予防接種
４Ｈ	８．感染症の治療
５Ｈ	９．病原微生物 １）病原細菌と病原真菌 ２）ウイルス感染症
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　微生物学（医学書院）

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	臨床検査	担当教員		単位数	１	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	１．医療における臨床検査の位置づけと意義を理解する。 ２．主な臨床検査の性質や検体の採取にあたっての準備や注意事項および検査結果の解釈の仕方を理解する。 ３．臨床検査における看護師の役割と、検査に関連して起こりうる医療事故防止の看護師に求められる対応について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１Ｈ	１．医療における臨床検査の意義						
２Ｈ	２．臨床検査の種類						
２Ｈ	３．臨床検査の進め方（流れ）						
１Ｈ	４．臨床検査における看護師の役割						
８Ｈ	５．主な臨床検査 １）一般検査 ２）血液検査 ３）（臨床）化学検査 ４）免疫・血清検査、輸血検査 ５）ホルモン検査 ６）微生物検査（感染症検査） ７）病理検査 ８）生理機能検査						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　別巻６　臨床検査　（医学書院）						

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	倫理学	担当教員	谷口　孝二	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	１．医療の進歩に伴う倫理的課題を学び、倫理的ジレンマと対処について理解できる。 ２．生命倫理について学び、対象者の尊厳といのちについて考えることができる。						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．倫理とは何か						
２Ｈ	２．医療倫理の歴史 １）古代から近代の医療倫理の変遷 ２）現代：患者の権利の時代へ						
４Ｈ	３．倫理的ジレンマと倫理原則　　<u>演習</u> １）原則論 ２）物語論、ナラティブ						
６Ｈ	４．生命倫理の概念　　<u>演習</u> １）生殖の生命倫理 ２）死の生命倫理 ３）遺伝子診断と治療をめぐる生命倫理 ４）移植医療と生命倫理 ５）再生医療と生命倫理						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門基礎分野　倫理学　（医学書院）						

２）疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	臨床判断の基礎	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		―					
学習目標	その場、その時の対象の健康状態の変化に気づき、解釈、反応、省察する臨床判断の考え方を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．臨床判断の定義 １）臨床判断とは ２）臨床推論とは ３）臨床判断能力が必要とされる背景						
６Ｈ	２．臨床判断のプロセス（タナ―の臨床判断モデル） １）気づく ２）解釈する ３）反応する ４）省察する						
６Ｈ	３．場面提示　<u>演習</u> １）気づきの支援 ２）ディスカッション ３）リフレクション						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他							

３）健康支援と社会保障制度

授業科目	関係法規	担当教員		単位数	１	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	人間の生活における法との関係や看護職に携わる者にとって、もっとも重要な法である保健師助産師看護師法を中心に、医事や衛生、社会保障、労働などの関係法令について理解する。						

時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．法の概念 １）法とは ２）法の種類
６Ｈ	２．衛生法規 １）衛生法規の意義 ２）衛生法規の沿革　　“医療関係法令” ３）衛生法規の分類 ・医事法（医師法・医療法） ・薬務法 ・保健衛生法 ・予防衛生法 ・環境衛生法 ・労働法 ・社会保険法 ３．厚生行政のしくみ
６Ｈ	４．保健師助産師看護師法 １）目的 ２）定義 ３）構造と内容 ５．看護師等の人材確保の促進に関する法律 １）目的 ２）定義 ３）活動内容
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　看護関係法令　（医学書院）

３）健康支援と社会保障制度

授業科目	公衆衛生学	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	人々の健康の保持・増進、疾病予防を目的とし、保健・医療・福祉に関する社会資源の整備と有効な活用を図り、身体的、精神的、社会的に個人と社会の能力を十分に発揮させるための組織や活動内容を理解する。						

時　間	学　習　内　容		
３Ｈ	１．公衆衛生の概念 １）公衆衛生の意義 ２）公衆衛生の歴史 ３）プライマリヘルスケア ４）ヘルスプロモーション ５）公衆衛生の活動対象 ２．公衆衛生のしくみ １）政策展開 ２）国・地方自治体の役割 ３）国際保健	２Ｈ	６．職場と健康 １）労働安全衛生法 ２）労働災害・職場の健康管理体制 ７．感染症とその予防対策 １）感染症法 ２）感染症の成立要因と感染症の予防 ３）公衆衛生上の重要な感染症 ８．国際保健 １）国際保健の担い手 ２）国際保健の共通目標
２Ｈ	３．環境と健康 １）地球規模の環境と健康 ２）身のまわりの環境と健康	３Ｈ	９．健康危機管理・災害保健 １）健康危機管理体制 ２）地域保健における健康危機管理 ３）災害保健
２Ｈ	４．集団の健康をとらえるための手法 １）疫学・保健統計 ５．学校と健康 １）学校保健安全法 ２）学校保健活動・健康診断 予防接種		
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看 専門基礎分野　公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）

３）社会保障制度と生活者の健康

授業科目	社会福祉	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・中期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	社会福祉の発達、理論、社会福祉制度について知るとともに、社会環境激変の中での国民の福祉ニーズ、そのニーズに応えるための方法や制度、サービスの活用について理解する。						

時　間	学　習　内　容		
２Ｈ	１．社会保障制度の概念	４Ｈ	７．所得保障 １）年金制度
２Ｈ	２．社会福祉の法制度 １）社会福祉法 ２）福祉六法		２）雇用保険制度 ３）労働者災害補償制度
２Ｈ	３．社会福祉の歴史 １）社会福祉の成立 ２）前近代の救済 ３）近代の救済	３Ｈ	８．公的扶助 １）生活保護制度 ２）低所得者対策
４Ｈ	４．現代社会の変化と社会保障 １）現代社会の変化 ２）社会保障・社会福祉の動向 ３）他職種連携	３Ｈ	９．障害者福祉
４Ｈ	５．医療保障 １）医療保障制度 ２）健康保険と国民健康保険 ３）高齢者医療制度	３Ｈ	10．児童福祉
２Ｈ	６．介護保障 １）介護保険制度創設の背景 ２）高齢者福祉と介護保険		
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門基礎分野　社会福祉　（医学書院） 社会福祉小六法　（ミネルヴァ書房）

３）健康支援と社会保障制度

授業科目	リハビリテーション概論	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	１．リハビリテーションの理念やリハビリテーション看護の専門性を理解する。 ２．チーム医療としてのリハビリテーションの具体的な活動内容を通して、看護師の役割を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．リハビリテーションの歴史と理念 １）リハビリテーションの変遷 ２）障害者の定義 ３）障害の制度 ４）疾病、障害、生活機能の分類 ２．リハビリテーションにおけるチームアプローチ						
３Ｈ	３．リハビリテーション看護の概論 １）リハビリテーション看護の概念、機能 ２）リハビリテーション看護の方法論　　演習（関節可動域訓練・自動他動運動・松葉杖）						
２Ｈ	４．リハビリテーションを必要とする対象の特徴とその家族の理解						
４Ｈ	５．リハビリテーション看護の実際 １）新たな生き方の発見に向けたリハビリテーション看護 （１）障害の受容への働きかけ （２）自立への歩み・新たな価値観の獲得への支援 ２）自己実現の達成を支えるリハビリテーション看護 （１）QOLの向上に向けた生活行動の再獲得 （２）生活行動の再獲得に向けた具体的なリハビリテーション						
３Ｈ	３）障害・状態別リハビリテーション看護 （１）運動機能障害をもつ人のリハビリテーション看護（脊髄損傷含む） （２）認知障害・コミュニケーション（脳神経系）障害をもつ人のリハビリテーション看護 （３）感覚器機能（視覚・聴覚）障害をもつ人のリハビリテーション看護						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　別巻３　リハビリテーション看護　（医学書院）						

３）健康支援と社会保障制度

授業科目	総合保健医療論	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・中期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	社会福祉、関係法規における学びをつなげるとともに、現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその問題発生の背景を知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性・視点について理解する。						

時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．医学・医療の変遷 １）医療の本質と現代医療の特徴 ２）人間の健康・生活の変遷と医療・保健 ・救急医療体制 ・医療変革 ・地域包括医療
４Ｈ	２．科学技術の進歩と現代医療 １）がん診療の最前線 ２）移植医療 ３）再生医療 ４）人工臓器 ５）体外受精と出生前診断
２Ｈ	３．現代医療の課題 １）先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ ２）情報社会と医療
４Ｈ	４．わが国の医療保障の現状と課題 １）わが国の医療保険制度 ２）国民医療費の動向 ３）医療経済・看護経済 ４）診療報酬の仕組みと看護の対価
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	国民衛生の動向　（厚生労働統計協会） 系看　専門基礎分野　総合医療論　（医学書院）

３）健康支援と社会保障制度

授業科目	健康支援論	担当教員		単位数	１	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	地域社会における生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動について理解する。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．衛生行政活動の概況 １）地域保健法 ２）保健所の業務・機能 ３）市町村保健センターの業務・機能 （主に保健師の保健活動）	５Ｈ	６．地域包括ケアシステムと在宅ケア １）地域包括ケアシステム ２）ケアマネジメントと看護 ３）関係職種との連携 ４）在宅ケアシステムの実際
	２．人間の生涯を通じた健康づくりの意義	６Ｈ	７．母性・小児における健康支援 １）母子保健行政のあゆみ ・母子保健法 ・健やか親子２１ ２）母子保健対策の現状
４Ｈ	３．成人保健の動向と成人の健康保持増進 １）成人の身体と生活の特徴 ２）健康指標にみる成人の特徴 ３）成人期の保健活動 ・健康日本２１ ・健康増進法 ・がん対策基本法		８．精神保健 １）地域生活を支えるためのしくみ ２）自殺予防
４Ｈ	４．生活習慣病の早期発見・早期治療 １）生活習慣病を早期発見するための仕組み ２）メタボリックシンドローム ３）生活習慣改善の知識 ４）高齢者の医療確保に関する法律		９．障害者保健・難病保健 １）障害者・難病保健活動に関する法律 ２）地域支援システム 10．歯科保健 １）歯科保健の法的根拠 ２）ライフステージにおける歯科・口腔保健
６Ｈ	５．高齢者と社会システム １）保健医療、福祉制度の概要 ２）介護保険制度の概要・改正点 ３）予防重視型システム ４）地域包括支援センター ５）医療保険制度の改革		
試験１Ｈ	６）訪問看護制度		

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看 専門基礎分野　公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）

専　門　分　野

専門分野―基礎看護学

授業科目	基礎看護学概論	担当教員	谷口　優子	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講 義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					

学習目標	１．看護の基本となる主要概念（看護、人間、健康、環境）を理解する ２．地域の中の看護を理解する ３．看護における倫理についての基礎的知識を理解する

時　間	学　習　内　容		
８Ｈ	１．看護の概念 １）看護の変遷 ２）看護の定義（保助看法における看護の定義、理論家にみる看護の定義） ３）看護の役割と機能	４Ｈ	５．地域における看護 １）地域における看護の対象 ２）チーム医療（多職種連携） ３）病院における看護 ４）継続看護（地域包括ケアシステム）
７Ｈ	２．人間の概念 １）看護の対象としての個人 ２）各ライフサイクルステージにおける身体的･精神的社会的特徴と発達課題 ３）人間の欲求 ４）対象の心理	２Ｈ	６．看護における倫理 １）職業倫理 ２）看護倫理 ３）医療専門職の倫理規定
８Ｈ	３．健康の概念 １）健康の定義 ２）健康に影響する要因 健康の成立要因 ３）健康水準と看護活動 ４）自己ケアとプライマリーヘルスケア ５）健康観、クオリティオブライフ ４．環境の概念 １）環境とは ２）物理・化学・生物学的環境 ３）社会・文化的環境 （家族・地域社会・民族・文化） ４）適応と対処機制	試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	看護学概論（メディカ出版） 臨床看護総論（医学書院） 看護覚え書　（現代社）

専門分野―基礎看護学

授業科目	共通基本技術 （総論･コミュニケーション･感染予防）	担当教員	八木 美智子 中村　寛子 堤　国夫	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	

学習目標	１．看護技術の特徴を理解する ２．看護におけるコミュニケーションの基礎を理解できる ３．感染防止の意義を理解し、感染防止対策の基本技術が習得できる
時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．基礎看護技術総論 １）看護技術とは ２）看護技術の構造
１５Ｈ	２．人間関係を成立・発展させる技術 １）看護実践における人間関係の必要性 ２）看護におけるコミュニケーション技法 ３）看護にいかすコミュニケーション ４）看護実践における人間関係の必要性プロセスレコードの考察 ５）看護と人間尊重
１２Ｈ	３．感染防止の技術 １）感染防止の基礎知識 ２）標準予防策（スタンダードプリコーション） ３）感染経路別予防策 ４）洗浄・消毒・滅菌 ５）無菌操作 ６）感染性廃棄物の取り扱い ７）カテーテル関連血流感染対策 ８）針刺し防止策 （２）５）　演習（４Ｈ）
試験１Ｈ	
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版） 基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス　（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	ヘルスアセスメントⅠ （バイタルサイン）	担当教員	堤　国夫	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．ヘルスアセスメントにおけるフィジカルアセスメントが理解できる ２．バイタルサインの意義と看護上の重要性が理解できる ３．バイタルサインの測定ができる						
時　間	学　習　内　容						
２Ｈ	１．ヘルスアセスメントとは ２．健康歴とセルフケア能力のアセスメント						
１２Ｈ	３．全体の外観 １）フィジカルアセスメントに必要な技術　（問診、視診、触診、聴診、打診） ２）全身状態・全体印象の把握 ３）バイタルサインの観察とアセスメント ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧 ⑤意識 ４）計測　（身長、体重、腹囲、胸囲、握力） ５）バイタルサイン測定の実際　　演習（４Ｈ） 体温、脈拍、呼吸、血圧、パルスオキシメーター						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版） 看護技術プラクティス　（学研）						

専門分野―基礎看護学

授業科目	ヘルスアセスメントⅡ （フィジカルアセスメント）	担当教員	中村　笑美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	系統別フィジカルイグザミネーションを活用し、対象者の健康状態を的確に判断できる。						

時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．ヘルスアセスメント １）フィジカルアセスメントとは ２）スクリーニング ３）系統別のアセスメント
６Ｈ	２．身体一般のフィジカルアセスメント １）一般状態 ①皮膚　②指・爪　③頭部　④頸部　⑤顔　⑥耳　⑦口腔　⑧眼　⑨リンパ節　⑩浮腫 ２）一般状態　演習（２Ｈ）
５Ｈ	３．胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメント １）肺・胸郭 ①胸郭の視診・触診・打診　②音声振とうの触診　③胸郭・横隔膜の可動性 ④副雑音（連続性ラ音・断続性ラ音） ２）肺・胸郭　演習（２Ｈ）
６Ｈ	４．胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメント １）心臓・血管系 ①末梢循環の触診　②頸静脈の視診　③頸動脈の視診・触診・聴診　④Ⅰ音・Ⅱ音の識別 ⑤前胸部全体と心尖部の視診・触診　⑥心雑音（収縮期・拡張期）　⑦異常心音 ２）心臓・血管系　演習（２Ｈ）
４Ｈ	５．腹部・乳房のフィジカルアセスメント １）腹部：腹部の視診・聴診・触診、腹水 乳房：乳房、所属リンパ節 ２）腹部・乳房　演習（２Ｈ）
５Ｈ	６．神経系、筋・骨格筋系のアセスメント １）神経系、筋・骨格筋系 ①運動機能（運動麻痺の検査）　②表在知覚・深部知覚　③深部腱反射・表在性反射 ④小脳機能・平衡機能の検査　⑤関節可動域の測定⑥筋力の評価 ２）神経系、筋・骨格筋系　演習（２Ｈ）
1H実技試験 1H筆記試験	フィジカルイグザム

成績評価方法	実技試験、筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス　（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅰ （環境・活動・休息）	担当教員	川瀬　さゆり	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての経験あり	必修・選択別		必修	

学習目標	１．人間にとっての生活環境と、健康生活における活動・休息の意義を理解する ２．生活環境の調整・整備のための基本的技術を習得する ３．対象に対する活動・休息の必要性と援助方法を習得する
時　間	学　習　内　容
１２Ｈ	１．環境調整技術 １）ナイチンゲールと環境 ２）療養生活と環境 （１）療養生活の環境調整　（温・湿度・換気・採光・臭気・騒音） （２）環境整備 （３）ベッドメーキング　　演習（４Ｈ） （４）リネン交換（臥床患者のリネン交換）デモンストレーション
１１Ｈ	２．活動・休息援助技術 １）活動の援助 （１）ボディメカニクスの原理　（４）（５） （２）体位　演習（３Ｈ） （３）同一体位による弊害（廃用症候群） （４）体位変換/体位保持（安楽物品） （５）移乗・移送の介助（車いす・ストレッチャー） ２）睡眠・休息の援助 （１）睡眠とは （２）睡眠のアセスメント
２Ｈ	３．安楽を促進し、安寧を保つための援助 １）罨法 ２）リラクゼーション
４Ｈ	４．患者の状況に応じた環境整備（シミュレーション）　演習（４Ｈ）
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版） 看護技術プラクティス（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ （食事・排泄）	担当教員	木村　千秋	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．人間にとっての食及び排泄の意義とメカニズムが理解できる ２．食及び排泄の援助を受ける対象の心理を理解する ３．食及び排泄の援助技術を習得する						

時　間	学　習　内　容
７Ｈ	１．食事援助技術 １）食の意義とメカニズム ２）食の観察とアセスメント ３）食生活支援 ４）誤嚥予防・食事介助 ５）医療施設で提供される食事形態
２２Ｈ	２．排泄援助技術 １）排泄の意義とメカニズム ２）排泄の観察とアセスメント ３）自然排尿・排便の援助 便器・尿器、ポータブルトイレの使い方 ４）排便困難時の援助 浣腸 ３）４）演習（４Ｈ） ５）排尿困難時の援助 導尿 膀胱留置カテーテル 演習（４Ｈ）
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅲ （清潔・衣生活）	担当教員	中村　笑美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	

学習目標	１．人間にとっての衣服、身体清潔の意義を理解する ２．衣生活の援助技術を習得する ３．身体清潔の援助技術を習得する
時　間	学　習　内　容
７Ｈ	１．衣生活の援助技術 １）衣服の意義 ２）衣生活のニーズ・アセスメント ３）衣の選択 ４）臥床患者の寝衣交換　演習（３Ｈ）
２２Ｈ	２．清潔の援助技術 １）身体清潔の意義 ２）皮膚・粘膜の構造と機能 ３）清潔のニーズ・アセスメント ４）身体各部の清潔方法 （１）入浴・シャワー浴・全身清拭の基礎知識 臥床患者の全身清拭　演習（４Ｈ） （２）洗髪・整容の基礎知識 洗髪　演習（３Ｈ） （３）口腔ケア・義歯の基礎知識 口腔ケア・義歯の取り扱い　演習（２Ｈ） （４）部分浴・陰部ケアの基礎知識 手浴・足浴・陰部洗浄　演習（３Ｈ）
試験１Ｈ	
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術Ⅰ （与薬）	担当教員	中村　笑美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					

学習目標	１．与薬の基礎知識を理解できる ２．各種与薬方法の看護技術を習得する ３．与薬時の看護師の役割を理解できる
時　間	学　習　内　容
５Ｈ	１．与薬の基礎知識 １）与薬とは（与薬の種類と目的） ２）薬物の基本的性質（剤型と投与経路、薬物動態） ３）看護師の役割（正しい与薬、薬の管理、法的根拠）
２２Ｈ	２．援助の基礎知識・援助の実際 １）経口与薬・口腔内与薬 ２）吸入 ３）点眼・点鼻 ４）経皮的与薬 ５）直腸内与薬　演習（２Ｈ） ６）注射 （１）皮内注射 （２）皮下注射　演習（４Ｈ） （３）筋肉内注射 （４）静脈路確保・点滴静脈内注射 ・ワンショット（静脈内注射） ・点滴静脈内注射　演習（４Ｈ） ・中心静脈カテーテル
２Ｈ	３．輸血とは １）輸血の種類、副作用、準備、実施、記録、管理
試験１Ｈ	
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ （診察・検査）	担当教員	中村　笑美	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．診察・検査の目的を理解する ２．検体検査、生体検査における特徴、看護師の役割が理解できる						

時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．診察・検査とは
１０Ｈ	２．検体検査 １）血液検査（静脈血、動脈血） ２）静脈血採血　演習（３Ｈ） ３）尿検査、便検査 ４）喀痰検査 ５）胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺
２Ｈ	３．生体検査 １）エックス線撮影、ＣＴ、ＭＲＩ、核医学 ２）超音波、肺機能検査 ３）心電図検査（12誘導、ホルター心電図） ４）内視鏡検査（上部消化管内視鏡検査、下部内視鏡検査、気管支鏡検査）
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス　（学研） 臨床検査

専門分野―基礎看護学

授業科目	看護理論	担当教員	堤　国夫	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					

学習目標	１．看護における倫理の必要性を理解する ２．ナイチンゲールの看護に対する考え方を理解する ３．主要な看護理論家の看護に対する考え方を知る
時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．看護理論とは １）看護理論とは ２）看護理論を学ぶ必要性 ３）看護理論の範囲 ４）看護におけるメタパラダイム ５）看護理論の歴史的変遷 ６）看護理論と看護過程
４Ｈ	２．ナイチンゲールの看護に対する考え方 １）ナイチンゲールの生涯 ２）ナイチンゲールの思想 ３）看護覚え書き
６Ｈ	３．主要な看護理論家の看護に対する考え方 １）ヘンダーソン「ニード論」 ２）ウイーデンバック「臨床看護での援助技術」 ３）ベナー「技術習得モデル」 ４）ペプロウ「人間関係の看護論」 ５）トラベルビー「人間対人間の関係モデル」 ６）ロイ「適応モデル」 ７）オレム「セルフケア理論」 ８）薄井坦子「科学的看護論」
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	看護理論（南江堂） 看護覚え書き（現代社） 基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版）

専門分野―基礎看護学

授業科目	看護過程	担当教員	川瀬　さゆり	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					
学習目標	看護過程の意義、展開方法を理解する						

時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．看護過程とは 看護過程の意義・定義、看護過程の５つの構成要素 ２．クリティカルシンキングとは
８Ｈ	３．看護診断のためのアセスメントツール ゴードンの機能的健康パターン11項目
４Ｈ	４．看護診断の構成要素 １）看護診断について （１）看護診断の構成要素とプロセス （２）看護診断の種類 （３）看護診断の記述法 （４）看護診断の優先順位について ２）共同問題について ３）関連図について
４Ｈ	５．計画 １）目標・計画 ２）その他（クリニカルパス、標準看護計画）
２Ｈ	６．実施・評価
９Ｈ	７．事例による基礎的な看護過程の展開 １）データベース ２）アセスメント・問題リスト ３）関連図

成績評価方法	筆記試験、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版） 看護診断関連

専門分野―基礎看護学

授業科目	臨床看護総論	担当教員	杉山　順哉 佐々木 光隆 八木　美智子	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					

学習目標	１．健康状態の経過別にあわせた看護の基礎知識について理解できる ２．症状にあわせた看護の基礎知識を理解できる ３．治療処置に伴う看護の基礎知識を理解できる
時　間	学　習　内　容
８Ｈ	１．健康状態の経過別に基づく看護 １）急性期の看護 ２）慢性期の看護 ３）リハビリテーション期の看護 ４）終末期の看護
１２Ｈ	２．主要な症状を示す対象者への看護 １）呼吸に関連する症状を示す対象者への看護　演習（２Ｈ） （１）酸素療法 （２）吸入 ２）体温に関連する症状を示す対象者への看護 （１）発熱時 （２）低体温時 ３）栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 非経口的栄養摂取の援助 （１）経管栄養法の基礎知識 （２）経鼻経管栄養法（胃管挿入、栄養剤注入）　演習（２Ｈ） ４）安楽に関連する症状を示す対象者への看護 （１）痛み （２）嘔気・嘔吐
９Ｈ	３．治療・処置を受ける対象への看護 １）化学療法と看護 ２）放射線療法と看護 ３）手術療法と看護 ４）医療機器と看護　演習（２Ｈ） （輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、心電図モニター、除細動器の取り扱い）
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　基礎看護学〔４〕　（医学書院） 看護過程に沿った対症看護　（学研） 看護技術プラクティス　（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	臨床看護技術	担当教員	西村 洋子	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての経験あり					

学習目標	１．1年次で習得した看護技術を活用し、対象の状況・状態を把握し、援助の方法を考える ２．リフレクションを活用し、状態把握した対象に必要な看護援助を実践できる
時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．看護技術の自己評価 １）共通基本技術 ２）日常生活援助技術
４Ｈ	２．看護技術の習得 １）原理・原則に基づく技術 ２）安全・安楽に基づく技術 ３）対象に応じた技術
試験１Ｈ	３．実技試験（状況設定） （１）全身状態の観察 （２）バイタルサインの測定 （３）看護援助の方法を考える
４Ｈ	４．リフレクション 実践方法の具体化
４Ｈ	５．シミュレーション 対象に応じた看護援助の実践　<u>演習（４Ｈ）</u>

成績評価方法	実技試験、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	基礎看護技術Ⅰ（メディカ出版） 基礎看護技術Ⅱ（メディカ出版） 看護技術プラクティス　（学研）

専門分野―基礎看護学

授業科目	看護研究・看護倫理	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験	看護師としての経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．看護における倫理的問題について理解する ２．倫理的ジレンマについて、倫理原則を用いて分析する ３．看護研究の基本的知識を習得し、質の高い看護を探究する方法を理解する						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．看護倫理とはなにか １）看護倫理を学ぶ意義 ２）看護倫理の歴史 ３）看護の倫理原則 ４）看護実践上の倫理的概念 ５）看護実践と倫理	８Ｈ	１．看護における実践と研究 １）看護研究とは ２）看護研究の意義 ３）看護における研究と理論 ２．研究の種類 １）質的なアプローチの研究 ２）量的なアプローチの研究
２Ｈ	２．専門職の倫理 １）社会からみた看護 ２）専門職に求められる倫理 ３）専門職の倫理綱領 ４）保健師助産師看護師法と倫理		３．研究の進め方 １）研究テーマ ２）研究計画書 ３）データ収集と分析 ４）研究発表
２Ｈ	３．倫理問題へのアプローチ １）看護実践における倫理的問題の特徴 ２）倫理的問題へのアプローチ		４．ケーススタディ １）ケーススタディとは ２）ケーススタディの進め方
９Ｈ	４．事例分析 １）自己の看護実践で生じた倫理的ジレンマの分析 （臨床倫理の四分割表） ２）発表	７Ｈ	５．文献検察、クリティークの実際 １）文献検索の方法、文献の読み方 ２）倫理的配慮 ３）論文の構成、抄録の構成 ４）講評 ５）発表の意義・目的

成績評価方法	課題、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系統　看護学講座　別巻　看護倫理（医学書院） ひとりで学べる看護研究（照林社）

専門分野―基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ （生活者と生活環境･コミュニケーション）	担当教員	西村　洋子	単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目的	看護の対象や看護の場を理解し、看護を実践するための基礎的な能力を養う。						

学習活動	内容
１．地域で生活を送っている人々の、生活と健康について理解する。	１．生活者の年齢、性別 ２．生活者の日常生活の状況 ３．生活者の一日の過ごし方 ４．生活環境、生活の場の特徴 ５．健康に対する考え方・思い（感情）の理解
２．対象の療養生活を知り、看護師と共に環境調整をする。	１．対象の病室環境 ２．対象の病床環境 ３．対象の身体の状態 ４．安全・安楽な環境 ５．対象のニーズに応じた病床環境
３．看護師と共に行動し、療養生活をしている対象を理解する。	１．対象の概要の把握 ２．バイタルサイン測定 ３．年齢、性別、医学的診断名 ４．主訴、現病歴 ５．身体の変化（解剖生理学的視点から） ６．症状 ７．入院前の生活状況 ８．現在の生活状況 ９．療養生活に対する思い 10．症状、治療、検査に対する思い 11．コミュニケーション技術 12．意図的な情報収集 13．一日の過ごし方 14．生活の変化に対する思い
４．看護師の関わりを参考にし、関係性を築くためのコミュニケーション手段について考える。	１．コミュニケーション技術 　１）対象への関心 　２）対象の思いへの共感 　３）傾聴 　４）感じたり、考えたりしたことの表現 ２．対象の立場、状況 ３．尊重した態度 　１）看護者としての話し方 　２）看護者としての聴き方 　３）環境への配慮 　４）プライバシーの保持 　５）約束の厳守
５．オリエンテーションや看護師とともに行動しながら、病院での療養生活を支える人々とその活動を理解する。	１．看護師の活動 ２．活動の意味づけ ３．活動が対象に与える影響 ４．報告 ５．看護チーム内での情報の共有 ６．２４時間継続看護 ７．チーム医療 ８．各職種の役割・機能 ９．多職種の連携・協働 10．多職種の中の看護の役割
成績評価方法	臨地実習の評価要領、基礎看護学実習Ⅰ評価基準に準ずる

専門分野―基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ （対象理解・日常生活援助）	担当教員	川瀬　さゆり	単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	病院での療養生活を送る看護の対象を理解し、看護を実践するための基礎的な能力を養う						

学習活動	内容
１．患者を理解するために必要な情報を意図的に収集し、心身の状態と生活の変化を知る	１．心身の状態 １）発達段階 ２）健康の段階 ３）疾患・治療 ４）症状 ５）栄養状態 ６）排泄機能 ７）活動レベル ８）入院・治療に対する思い ２．生活の変化 １）入院前の生活状況 （家族構成、キーパーソン、社会的役割） ２）現在の生活状況 ３）生活の変化に対する思い
２．患者と自己の発する言葉の意味や感情の理解を深めながら、援助的関係（患者―看護師関係）を形成するための、コミュニケーションを実践する	１．患者への関心 ２．患者の立場や状況を把握 ３．尊重した態度 ４．プライバシーの保持 ５．約束の遵守 ６．患者との関わりについて振り返り ７．振り返ったことを次の関わりに活用
３．健康障害を持ちながら入院生活を送る患者のニーズに応じた看護を実践する	１．患者状態の把握 ２．場面に適したコミュニケーション ３．患者に応じた療養環境 ４．ニーズに応じた援助 １）援助の目的 ２）患者にあった援助方法 ３）患者の反応 ４）援助方法の変更
成績評価方法	臨地実習の評価要領、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学概論	担当教員	岡田　英恵 松井　麻美	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	

学習目標	１．ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴を３側面から理解する。 ２．成人期における健康問題の特徴を理解する。 ３．成人期の特徴をふまえた看護が理解できる。
時　間	学　習　内　容
８Ｈ	１．ライフサイクルにおける成人各期の特徴と発達課題、基本的アプローチ １）青年期・壮年期・中年期 ２）成人の健康観 ３）成人教育の概念と支援方法 ４）意思決定支援
８Ｈ	２．成人の健康問題の特徴・対策 １）健康バランスの構成要素と影響を及ぼす因子 ２）生活習慣に関する健康問題 （１）食生活　（２）運動　（３）喫煙　（４）飲酒 ３）職業生活に関する健康問題 （１）労働者の健康障害 （２）職業性疾病の予防と対応 塵肺・レイノー現象・ＶＤＴ （３）メンタルヘルス ４）ストレスに関する健康問題 （１）ライフイベントによるストレス ５）セクシュアリティに関する健康問題 （１）性的健康　（２）更年期障害　（３）性感染症
１３Ｈ	３．成人の健康状態に応じた看護 １）経過各期(急性期・回復期・慢性期・終末期) ２）個別指導と集団指導 ３）成人を対象とした健康行動の支援の実際　<u>演習</u>
試験１Ｈ	
成績評価方法	筆記試験、課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	成人看護学①　成人看護学総論（メヂカルフレンド社） 成人保健　（メヂカルフレンド社） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ （急性期、循環・呼吸）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．成人期にある急性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 ２．急激な健康状態の変化の応じた患者の看護が理解できる。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	循環器系疾患患者の看護 １．患者・急性期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）狭心症・心筋梗塞 ２）心不全 ３）不整脈 ３．症状をもつ患者の看護 １）胸痛 ２）動悸 ３）失神 ４）血圧異常・ショック ５）浮腫 ６）呼吸困難 ７）チアノーゼ ４．検査を受ける患者の看護 １）心電図１２誘導 ２）心臓カテーテル検査 ５．治療処置を受ける患者の看護 １）冠動脈インターベンション ２）安静療法 ３）心臓リハビリテーション ４）薬物療法 ５）手術療法 ６．臨床判断、リスク管理 急性心筋梗塞	１５Ｈ	呼吸器系疾患患者の看護 １．患者・急性期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）肺炎　２）慢性閉塞性肺疾患 ３）気胸　４）肺癌 ３．症状をもつ患者の看護 １）咳嗽・喀痰・喘鳴 ２）呼吸困難 ３）胸痛 ４）胸水 ４．検査を受ける患者の看護 １）内視鏡検査 ２）酸素飽和度測定 ３）動脈血ガス分析 ４）呼吸機能検査 ５．治療処置を受ける患者の看護 １）酸素療法 ２）人工呼吸療法 ３）呼吸リハビリテーション ４）低圧持続吸引　胸腔ドレナージ ５）手術療法 ６．呼吸を整える援助　<u>演習(3H)</u> １）体位ドレナージ ２）口腔・鼻腔・気管内吸引		
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（２）　呼吸器　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（３）　循環器　（医学書院） 系看　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学〔３〕（医学書院） 看護技術プラクティス　（学研）						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ （慢性期、内分泌・腎泌尿）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．成人期にある慢性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 ２．社会生活を送れるためのセルフケア向上に向けた看護が理解できる。						

時　間	学　習　内　容		
１５Ｈ	内分泌系疾患患者の看護 １．患者・慢性期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）糖尿病 ２）尿酸代謝異常 ３）バセドウ病 ４）クッシング病 ３．症状をもつ患者の看護 １）血糖異常 ２）口渇 ３）多尿 ４）やせ・肥満 ５）メルセベルグ三主徴 ４．検査を受ける患者の看護 １）尿検査（尿糖） ２）簡易血糖測定　<u>演習(2H)</u> ３）ホルモン検査 ４）糖負荷試験 ５．治療処置を受ける患者の看護 １）薬物療法 ２）食事療法 ３）運動療法	１４Ｈ	腎泌尿器系疾患患者の看護 １．患者・慢性期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）前立腺肥大症　２)前立腺癌 ３）腎不全　４）膀胱癌　５）腎腫瘍 ６）腎・尿路結石 ３．症状をもつ患者の看護 １）排尿障害　２）尿の性状異常 ３）浮腫　４）貧血　５）血圧異常 ４．検査を受ける患者の看護 １）尿検査 ２）尿流量測定・残尿測定 ３）直腸診 ４）腎生検 ５）内視鏡検査（DIP　膀胱鏡） ６）静脈性腎盂造影 ７）体外衝撃波結石破砕術（ESWL） ５．治療処置を受ける患者の看護 １）血液透析・腹膜透析 ２）食事療法 ３）薬物療法 ４）手術療法 ５）腎移植 ６．排尿を整える援助 １）自己導尿 ２）ウロストミーケア
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（６）　内分泌・代謝　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（８）　腎・泌尿器　（医学書院）

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ （回復期、脳神経・運動）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．成人期にある回復期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 ２．障害がある人々を支援する看護が理解できる。						
時　間	学　習　内　容						
１５Ｈ	脳神経系疾患患者の看護 １．患者・回復期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）脳出血 ２）脳梗塞 ３）脳腫瘍 ４）パーキンソン病 ５）ＡＬＳ ３．症状をもつ患者の看護 １）意識障害 ２）言語障害 ３）運動機能障害 運動麻痺･運動失調･不随意運動･痙攣 ４）感覚障害 ５）嚥下障害 ６）排尿障害 ７）呼吸障害 ８）頭蓋内圧亢進 ４．検査を受ける患者の看護 １）ＣＴ・ＭＲＩ ２）髄液検査 ３）脳波 ４）脳血管造影 ５．治療処置を受ける患者の看護 １）リハビリテーション ２）手術療法 ３）薬物療法 ４）化学療法・放射線療法		１４Ｈ	運動器系疾患患者の看護 １．患者・回復期看護の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 １）骨折 ２）腰椎椎間板ヘルニア ３）脊髄損傷 ４）関節リウマチ ５）骨粗鬆症 ３．症状をもつ患者の看護 １）疼痛 ２）変形 ３）関節拘縮 ４）運動麻痺 ４．検査を受ける患者の看護 １）骨密度測定 ２）ミエログラフィ ３）徒手筋力テスト ５．治療処置を受ける患者の看護 １）理学療法・作業療法 ２）義肢・装具 ３）牽引 ４）手術療法 ５）包帯法		
			試験１Ｈ				
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（７）　脳・神経　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（１０）　運動器　（医学書院）						

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ （終末期、血液造血・消化）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・中期	
授業形式	講　義	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．成人期にある終末期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 ２．その人らしく生を全うできるための看護が理解できる。						

時　間	学　習　内　容		
８Ｈ	血液、造血器系疾患患者の看護 １．患者の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 　１）悪性リンパ腫 　２）急性白血病 ３．症状をもつ患者の看護 　１）易感染状態 　２）出血傾向 　３）貧血 ４．検査を受ける患者の看護 　１）末梢血検査 　２）骨髄検査 　３）リンパ節生検 ５．治療処置を受ける患者の看護 　１）化学療法 　２）輸血療法 　３）造血幹細胞移植術	１１Ｈ	消化器系疾患患者の看護 １．患者の特徴 ２．疾患をもつ患者の看護 　１）食道がん 　２）胃がん 　３）大腸がん 　４）肝硬変・肝臓がん 　５）胆のう炎・胆石症 　６）膵臓がん ３．症状をもつ患者の看護 　１）腹痛 　２）下痢・便秘 　３）吐血・下血 　４）腹部膨満 　５）嘔気・嘔吐 　６）腹水 　７）黄疸 　８）肝性脳症 ４．検査を受ける患者の看護 　１）内視鏡検査 　　（胃内視鏡　大腸内視鏡） 　２）造影検査 　３）腹水穿刺 ５．治療処置を受ける患者の看護 　１）薬物療法 　２）栄養・食事療法 　３）胆汁ドレナージ
１０Ｈ	終末期にある患者の看護 １．終末期医療 ２．緩和ケア ３．全人的苦痛への看護 ４．その人らしい生活への看護 ５．家族支援 　１）エンゼルケア 　２）グリーフケア ６．様々な場における終末期ケア	試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（５）　消化器　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　成人看護学（４）　血液・造血器　（医学書院） 新体系看護学全書　経過別成人看護学４　終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅴ （外科系、急性～回復期）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．成人期にある周手術期の対象の特徴、健康の状態を理解する。 ２．手術侵襲の状態を捉え、合併症予防・回復促進するための看護が理解できる。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．周手術期の看護の特徴 ２．手術侵襲と生体反応 １）ムーアの分類 ２）神経・内分泌反応	７Ｈ	７．事例展開 １）胃がんで手術療法を受ける壮年期男性の看護過程 （１）アセスメント （２）診断 （３）計画
４Ｈ	３．創傷治癒過程 １）創傷治癒過程の各相 ２）手術創部の観察と処置 創傷処置　<u>演習（２Ｈ）</u>	２Ｈ	８．人工肛門造設術を受けた患者の看護 １）ストーマケア ２）日常生活への支援
２Ｈ	４．開腹・開胸・鏡視下術の特徴		
１２Ｈ	５．術前の看護 １）アセスメント ２）術前オリエンテーション ３）術後合併症予防の援助 ４）患者と家族の心理への援助 ６．術後の看護 １）患者のアセスメント ２）回復促進への援助 ３）合併症予防の援助 ４）自己管理と生活を支える援助 ５）患者と家族の心理への援助	試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院） 系看　別巻　臨床外科看護各論　（医学書院）

専門分野－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅵ （事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	壮年期にある対象の特徴、慢性病との共存を支える看護が理解できる。						

時　間	学　習　内　容
	《事例展開》　糖尿病を患い、生活の管理を必要とする壮年期の患者
１Ｈ	１．事例展開の学習の視点
１０Ｈ	２．糖尿病患者の看護の視点
	３．アセスメント
	４．看護上の問題の明確化
	５．看護上の問題の優先度
	６．看護計画
４Ｈ	７．実施(ロールプレイ)・評価

成績評価方法	課題 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（６）　内分泌・代謝　（医学書院） 成人看護学①　成人看護学総論　（メヂカルフレンド社） 成人保健　（メヂカルフレンド社）

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ （慢性の経過をたどる対象の看護）	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目的	対象の発達段階、健康障害を理解し、症状に応じた看護の実践ができる能力を養う。						

学習活動	内容
１．発達段階や対象の健康の経過をふまえ、機能低下や機能変化について理解する。	１．現病歴 ２．既往歴 ３．治療方針・治療内容 ４．発達段階・発達課題 ５．身体的変化 ６．心理的変化 ７．病気・治療・入院に対する思い ８．社会参加の状況、社会的役割、経済状態 ９．家族構成・家族関係、家族の思い・サポート力 10．入院前の介護度・介護の状態 11．生活習慣、趣味、嗜好 12．ＡＤＬ 13．日常生活の規則、生活リズム 14．強み 15．認知機能の状態 16．訴えや症状の発生機序 17．コミュニケーション能力の状態 18．入院中の環境 19．入院に伴う生活変化
２．健康の経過、生活上の変化を持つ対象の状況を踏まえ、症状に応じた援助を実施する。	１．苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的） ２．疼痛緩和の方法 ３．ＱＯＬ ４．今後の生活の場の環境状況 ５．状態に合わせた日常生活援助 ６．セルフケア能力 ７．安全、安楽、プライバシーの確保 ８．リフレクション ９．緊急度、優先度の判断 10．実施したことや患者、家族の反応 11．事実に基づいた判断 12．時宜を得た報告 13．チームでの情報交換 14．チーム間の連携
３．実践を通して、発達段階・健康障害を踏まえた看護の理解を深める。	１．患者家族の状態 ２．発達段階 ３．健康行動に対する支援方法(理論、概念) ４．多職種連携 ５．倫理的配慮 ６．社会資源 ７．看護の役割
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人老年看護学実習Ⅰ評価基準に準ずる

専門分野―成人看護学

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期、回復期、終末期）	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	経過各期の特徴を踏まえ、対象のＱＯＬを意識し、状況に応じた看護の実践ができる能力を養う。						

学習活動	内容
１．健康上、生活上の状況を理解し、経過各期の特徴を踏まえ、対象を理解する。	１．現病歴 ２．既往歴 ３．治療方針・治療内容・告知内容 ４．発達段階・発達課題 ５．身体的変化 ６．心理的変化 ７．病気・治療・入院に対する思い ８．回復への期待、意欲 ９．死・障害の受容プロセス 10．価値信念・人生観・死生観 11．社会参加の状況、社会的役割、経済状態 12．家族構成・家族関係、家族や周囲の思い・サポート力 13．介護度・介護の状態 14．利用できる資源 15．生活習慣、趣味、嗜好 16．ＡＤＬ 17．日常生活の規則、生活リズム 18．強み 19．認知機能の状態 20．訴えや症状の発生機序 21．コミュニケーション能力の状態 22．入院に伴う生活変化 23．入院中の環境 24．経過各期の特徴(慢性期、回復期、終末期)
２．対象の状況を判断した上で、その人らしさを意識した看護を実施する。	１．全人的苦痛 （身体的･精神的･社会的･霊的） ２．疼痛緩和の方法 ３．ＱＯＬ ４．今後の生活の場の環境状況 ５．状態に合わせた日常生活援助 ６．その人らしい日常生活再構築への支援 ７．セルフケア、セルフマネジメント ８．安全、安楽、プライバシーの確保 ９．意思決定支援 10．コンプライアンス・エンパワメント 11．家族アプローチ 12．リフレクション 13．緊急度、優先度の判断 14．実施したことや患者、家族の反応 15．事実に基づいた判断 16．時宜を得た報告 17．チームでの情報交換 18．チーム間の連携
３．実践を通して、経過各期の特徴、ＱＯＬを意識した看護の理解を深める。	１．患者家族の状態 ２．経過各期の看護の特徴 ３．その人らしさの尊重 ４．看護の必要性 ５．健康行動に対する支援方法 （理論、概念） ６．継続看護 ７．多職種連携 ８．倫理的配慮 ９．社会資源
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人老年看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる

専門分野－成人看護学

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ （急性・回復期）	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	急性期回復期の対象を理解し、合併症予防や回復促進に向けた看護ができる能力を養う。						

学習活動	内容
１．手術侵襲からの回復の程度を理解して、術後合併症予防、術後の生活支援や回復を促す援助をする。	１．看護計画の活用 ２．発達段階、社会的役割 ３．発病前・入院前の生活の様子 ４．病態・経過別 ５．麻酔方法・術式・再建方法 ６．開腹術,腹腔鏡視下手術 ７．留置ドレーンの種類と位置 ８．手術前の状態 ９．手術中の状態 10．手術後の状態 11．創部・ドレーンの観察 12．輸液・使用薬剤 13．疼痛コントロール 14．ムーアの分類・創傷治癒過程 15．検査データ 16．術後合併症（麻酔方法、術式・再建方法、既往歴によるもの） 17．ドレーン類の管理 18．手術侵襲 19．ドレーン類の影響 20．苦痛を軽減するための援助 21．合併症予防 22．早期離床 23．状態に合わせた日常生活援助 24．形態的変化・機能的変化が生活に及ぼす影響 25．患者・家族の理解度 26．ボディイメージ 27．意思決定支援 28．家族の協力・参加 29．退院後の生活、自己管理への援助 30．緊急度、優先度の判断 31．実施したことや患者、家族の反応 32．事実に基づいた判断 33．時宜を得た報告 34．チームでの情報交換 35．チーム間の連携
２．実践を通して、急性期・回復期の看護の理解を深める。	１．急性期・回復期の特徴 ２．発達段階、患者、家族の状態 ３．障害受容・危機 ４．リハビリテーション ５．自己管理 ６．社会復帰 ７．多職種連携 ８．継続看護
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人老年看護学実習Ⅲ評価基準に準ずる

授業科目	老年看護学概論	担当 教員	脇坂　ひろみ 秋吉　美典	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．老年期にある対象の特徴を理解する。 ２．老年期の対象をとりまく社会と看護の役割を理解する。						

時　間	学　習　内　容		
１４H	１．老年期とは １）ライフサイクルステージの なかの老年期 ２）加齢と老化 ２．加齢(老化)に伴う諸機能の変化 １）身体的側面の変化 （１）生理機能の年齢による変化 （２）ホメオスタシスの変化 （３）諸機能の変化 ２）心理的側面の変化 （１）知能の変化 （２）認知能力の変化 （３）高齢者の生きる上での よりどころ、価値観・信念 ３）社会的機能の変化 （１）社会的役割の変化 ４）高齢者疑似体験　　演習（３H）	１５H 試験１H	５．高齢者をとりまく社会 １）超高齢社会の現状 （１）老年人口割合の変化 （２）家族形態の変化 （３）家庭介護の問題 ２）高齢社会における 保健医療福祉の動向 ３）高齢社会における権利擁護 （１）エイジズム・高齢者の アドボカシー （２）高齢者虐待の現状 ４．老年期を生きる人々の生活と健康 １）老年期の健康の特徴 （１）高齢者の健康意識 （２）健康寿命 （３）老年期の生活 （４）高齢者の生きがい ５．老年看護の役割 １）老年看護の対象 ２）老年看護の目標 ３）老年看護の特徴

成績評価方法	筆記試験・レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)
参考文献他	系看　専門Ⅱ　老年看護学　(医学書院) 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会)

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ （日常生活の看護）	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．老年期にある対象への日常生活の援助方法を理解する。 ２．終末期にある老年期の対象に対する援助を理解する。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．高齢者と生活リズム １）加齢に伴う睡眠と覚醒の変化 不眠・過眠・昼間の眠け 概日リズム ２）生活リズムを整える援助 ２．高齢者のコミュニケーション １）高齢者にみられる コミュニケーションの特徴 感覚機能の低下 老人性難聴、失語症、構音障害 ２）状態・状況に応じた コミュニケーションの方法	４Ｈ	５．高齢者の排泄への援助 １）加齢に伴う排泄機能の変化 排尿障害の特徴 排便障害の特徴 ２）排泄ケアの方法 摘便・おむつ交換・失禁ケア <u>演習（２Ｈ）</u> ６．高齢者の終末期の看護 １）死の迎えかたに関する 意向への理解 ２）苦痛の緩和と安楽への看護 ３）家族の心理の理解と看護
２Ｈ	３．高齢者の清潔への援助 １）加齢に伴う皮膚の変化 乾燥・掻痒、浸軟、菲薄、白癬 ２）セルフケア能力の特徴 ３）清潔を整える方法	２Ｈ	
４Ｈ	４．高齢者の食生活への援助 １）加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 摂食嚥下機能障害 ２）加齢に伴う栄養状態の変調 ３）食生活の支援 嚥下機能障害のある患者の 食事介助　<u>演習（２Ｈ）</u>	試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験・レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　老年看護学　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾患編　（医学書院）

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅱ （症状・機能障害別看護）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．高齢者の生活に影響を与える症状・兆候を理解する。 ２．老年期にある対象への治療・処置別看護や多様な生活の場に応じた援助の方法を理解する。						

時　間	学　習　内　容		
１１Ｈ	１．老年症候群とは ２．高齢者に多い症状・兆候 １）腰背部痛 ２）やせ ３）手足のしびれ ４）浮腫 ５）熱中症 ６）脱水症 ７）発熱	６Ｈ	５．廃用症候群の予防に向けた高齢者の看護 １）廃用症候群とは ２）廃用症候群予防への看護 （１）廃用症候群の症状 （２）全身と生活状況のアセスメント （３）廃用症候群の早期発見予防への看護
２Ｈ	３．治療・処置をうける高齢者の看護 １）検査を受ける高齢者の看護 ２）薬物療法を受ける高齢者の看護 ３）リハビリテーションを受ける高齢者の看護	２Ｈ	６．生活・療養の場における高齢者の看護 １）在宅高齢者と家族への看護 ２）保健医療福祉施設における患者と家族への看護 ３）多職種連携
８Ｈ	４．認知機能障害のある高齢者の看護 １）うつ ２）せん妄 ３）認知症 （１）認知症とは （２）認知症の症状 （３）認知症を抱える患者家族への看護		
		試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験・レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　老年看護学　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾患編　（医学書院）

専門分野－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅲ （事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	老年期にある対象の特徴や健康の状態に応じた看護の方法を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
	１．大腿骨頸部骨折術後の機能回復訓練を必要とする高齢患者の事例展開						
１Ｈ	１）事例展開の学習の視点						
１Ｈ	２）大腿骨頸部骨折患者の看護の視点						
６Ｈ	３）アセスメント						
２Ｈ	４）看護上の問題の明確化						
５Ｈ	５）看護計画						
成績評価方法	課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　老年看護学　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　老年看護　病態・疾患編　（医学書院）						

専門分野―老年看護学

授業科目	老年看護学実習 （対象理解・日常生活援助）	担当 教員		単位数	1	時間数	４０
				受講年次・時期		２年次・中期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師として臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	日常生活援助を通して、老年期にある対象の看護を理解する。						

学習活動	内容
１．対象に現れている加齢性変化や健康上の問題を抱えている高齢者の健康状態を理解する。	１．加齢性変化 ２．日常生活場面 ３．対象の一日の過ごし方 ４．現在の生活に対する思い ５．入院前の生活状況、生活習慣 ６．高齢者の疾病をめぐる特徴 ７．疾患・治療が対象に与えている影響 ８．入院による規制が与えている影響 ９．加齢性変化が与えている影響 10．関連因子・危険因子 11．強み 12．看護上の問題
２．対象に現れている加齢性変化やコミュニケーションの特徴に合わせてコミュニケーションをはかる。	１．加齢性変化が与えている影響 ２．日常生活援助の場面を活用したコミュニケーション ３．対象を尊重したコミュニケーション ４．言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの活用 ５．プロセスレコードの活用 ６．考察したことを次の対応へ活用
３．対象の希望やペース、身体の状態を考慮して援助を実施する。	１．対象の状況に応じた援助方法 ２．実施前の事前確認 ３．対象の希望に合わせた実施 ４．身体の状態に合わせた実施 ５．安全安楽な援助 ６．危険防止 ７．実施した援助の事実と振り返り ８．実施した援助についての報告 ９．時宜を得た報告 10．看護師間の連携
成績評価方法	臨地実習の実習評価要領・老年看護学実習Ⅱ評価規準に準ずる

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学概論Ⅰ （子どもと社会）	担当教員	西村　洋子	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	

学習目標	１．子どもの特性と子どもをとりまく社会を理解する。 ２．小児看護の特徴と役割を理解する。
時　間	学　習　内　容
１４Ｈ	１．子どもの定義 　１）子どもとは 　２）ライフサイクルにおける小児期 　３）小児期の区分 ２．子どもと社会 　１）子どもをとりまく社会の変化 　２）統計からみた子どもの健康 　３）子どもを保護する法律と施策 　　児童福祉法、児童虐待防止法 ３．子どもの権利 　１）児童憲章 　２）児童の権利に関する条約 　３）児童観の変遷 ４．小児看護とは 　１）小児医療・小児看護の変遷 　２）小児看護の対象 　３）小児の特性 　４）小児医療における倫理 　５）小児看護の役割
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論　（医学書院） 小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学概論Ⅱ （子どもの成長・発達と看護）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
６Ｈ	１．子どもの成長と発達 １）成長・発達の原則 ２）成長・発達に影響する因子 ３）成長・発達の評価						
１９Ｈ	２．小児各期の特徴と養育および看護 １）新生児の成長・発達と養育および看護 ２）乳児の成長・発達と養育および看護 ３）幼児の成長・発達と日常生活（基本的生活習慣の確立）、養育および看護 ４）学童の成長・発達と養育および看護 ５）思春期の子どもの成長・発達と看護						
２Ｈ	３．子どもの事故防止 １）発達段階における事故の特徴 ２）事故防止						
２Ｈ	４．子どもの遊びと教育 １）遊びの意義 ２）遊びの発達 ３）遊びと社会性 ４）教育の意義						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	系看 専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論　（医学書院） 小児臨床看護総論（医学書院）						

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅰ （健康障害と看護）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．子どもの健康障害について理解する。 ２．健康障害のある子どもと家族の看護について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	１．胎内で影響を受けた健康障害 １）代謝異常 ２）染色体異常 ３）胎芽病 ４）胎児病 ５）骨系統疾患 ６）未熟児 ２．子どもに特徴的な健康障害 １）消化器 ２）呼吸器 ３）循環器・血液 ４）腎・泌尿器 ５）脳・神経 ６）内分泌・代謝 ７）骨・関節 ８）感覚器 ９）免疫・アレルギー 10）感染症 11）悪性新生物 12）精神障害 13）事故・外傷		１５Ｈ	３．入院が必要な子どもと家族の看護 １）子どもの入院環境 ２）入院が及ぼす子ども・家族への影響 ３）入院時の看護 ４）入院中の生活援助 ５）退院時の看護 I21:I22 ４．外来における子どもと家族の看護 １）外来を訪れる子どもと家族の特徴 ２）診察・処置を受ける子どもと家族の看護 ５．症状にともなう子どもと家族の看護 １）発熱 ２）呼吸困難 ３）嘔吐 ４）下痢 ５）脱水 ６）けいれん ７）発疹 ８）痛み	

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅰ （健康障害と看護）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	

時　間	学　習　内　容
試験１Ｈ	６．治療・処置を受ける子どもと家族の看護 １）活動制限 ２）隔離 ３）食事制限 ４）薬物療法・検査・処置 ７．低出生体重児の看護（保育器の取り扱いを含む） ８．子どもの虐待と看護 ９．心身障害のある子どもと家族の看護 １）心身障害の種類と定義 ２）心身障害のある子どもをとりまく環境 10．小児看護に必要な技術　演習（２Ｈ） １）点滴固定 ２）身体測定 ３）バイタルサイン測定 ４）検査時の介助（採尿、採血） ５）抑制

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児臨床看護論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　小児看護学（２）　小児臨床看護各論　（医学書院）

専門分野－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅱ （状況別看護・事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．健康障害の状況に応じた子どもと家族の看護について理解する。 ２．看護過程の展開を通して小児期にある対象の看護を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	１．健康障害のある子どもと家族の看護 １）乳児期 ２）幼児期 ３）学童期 ４）思春期 ２．健康障害の経過と子どもと家族の看護 １）急性期 ２）周手術期 ３）慢性期 ４）終末期 ３．事例による看護過程の展開 慢性期にある子どもの看護:気管支喘息の６歳男児看護 １）アセスメント ２）診断 ３）計画 ４）実施 ５）評価						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験、課題 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　小児看護学（１）　小児臨床看護総論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　小児看護学（２）　小児臨床看護各論　（医学書院）						

専門分野―小児看護学

授業科目	小児看護学実習	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	小児とその家族を理解し、成長・発達、発達段階、健康の段階に応じた看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	＜保育園実習＞ １．子どもの成長・発達を理解し、子どもの特徴を捉えることができる。 ２．子どもの発達段階に応じた日常生活へのかかわり方、家族とのかかわり方が理解できる。 ＜病棟実習＞ １．小児の成長・発達と健康状態をとらえることができる。 ２．小児の状況に応じた看護が実践できる。 ３．小児看護の特徴を理解できる。						

学習活動	内容	
１．レクリエーションや生活の援助に参加し、小児の成長・発達に合わせたかかわり方を考える。	１．発達区分 ２．基本的生活習慣の獲得 ３．愛着形成 ４．認知機能 ５．情緒・社会性機能 ６．コミュニケーション機能 ７．生理的機能	８．運動機能 ９．形態的機能 10．ピアジェの認知発達理論 11．エリクソンの自我発達理論 12．ボウルビィの愛着理論 13．患児・家族とのかかわり方 14．家族との連携
２．患児への援助を通して小児の特徴と健康問題をとらえて必要な看護を考える。	１．患児の状態・状況 ２．観察技術 ３．情報源の活用 ４．情報収集手段の選択・場面の選択 ５．発達段階	６．発達課題 ７．ピアジェの認知発達理論 ８．エリクソンの自我発達理論 ９．ボウルビィの愛着理論 10．基本的生活習慣の獲得 11．病態関連図
３．患児や家族とコミュニケーションをとりながら、健康障害に応じた看護を実践する。	１．子どもの権利 ２．遊び ３．おもちゃの選択 ４．生活援助 ５．処置 ６．声掛け ７．プロセスレコードの振り返りの視点 ８．病棟アメニティ	９．病棟環境 10．ベッド周囲の環境 11．転倒転落 12．家族の協力 13．季節の行事 14．学習環境
４．体験したことをもとに小児看護の理解を深める。	１．小児の入院 ２．診療の補助 ３．危険防止 ４．感染防止 ５．事故防止 ６．継続看護 ７．生命維持	８．愛着形成 ９．異常の早期発見 10．家族看護 11．子どもの権利 12．成長発達の促進 13．回復の促進
成績評価方法	臨地実習の評価要領・小児看護学実習評価基準に準ずる	

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学概論	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．母性の概念、母性看護の特徴を理解する。 ２．母性保健の現状と動向、母性看護の役割を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	１．母性看護の基盤となる概念 １）母性とは ２）母子関係と家族発達 ３）セクシュアリティ ４）リプロダクティブヘルス／ライツ ５）ヘルスプロモーション ２．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 １）母性看護の歴史的変遷と現状 ２）母性看護の提供システム ３．母性看護の対象理解 １）女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ２）女性のライフサイクルと家族 ４．母子保健統計の動向、母性看護にかかわる法律・施策　<u>演習</u> １）母子保健統計の動向 ２）母性看護にかかわる法律 ３）母性看護にかかわる施策 ５．母性看護のあり方 １）母性看護とは ２）母性看護における倫理 ３）母性看護における安全・事故予防						
試験１Ｈ							
成績評価方法	課題、筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論　（医学書院） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）						

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅰ （妊娠期の看護）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．女性のライフステージ各期における看護を理解する。 ２．妊娠期の看護を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	１．女性のライフステージ各期における看護　　<u>演習</u> １）ライフサイクルにおける女性の健康と看護 ２）思春期の健康と看護 ３）成熟期の健康と看護 ４）更年期の健康と看護 ２．リプロダクティブヘルスケア １）家族計画 ２）性感染症とその予防 ３）人工妊娠中絶と看護 ４）性暴力を受けた女性に対する看護 ５）在日外国人の母子保健						
１５Ｈ	３．妊娠期における看護 １）妊娠期の身体的特性 ２）妊娠期の心理・社会的特性 ３）妊婦と胎児のアセスメント ４）妊婦と家族の看護 ５）親になるための準備教育 ４．妊娠の異常と看護 １）ハイリスク妊娠 ２）妊娠期の感染症 ３）妊娠高血圧症候群 ４）妊娠持続期間の異常 ５）異所性妊娠						
試験１Ｈ							
成績評価方法	課題、筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　成人看護学（９）　女性生殖器　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論　（医学書院）						

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ （分娩・産褥期、新生児の看護）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．分娩・産褥期及び新生児の看護を理解する。						

時　間	学　習　内　容		
１０Ｈ	１．分娩期における看護 １）分娩の要素 ２）分娩の経過 ３）産婦・胎児、家族のアセスメント ４）産婦と家族の看護 ５）分娩期の看護の実際 ２．分娩の異常と看護 １）産道・娩出力の異常 ２）胎児・付属物の異常 ３）胎児機能不全 ４）分娩時異常出血 ５）産科処置と産科手術	９Ｈ	５．新生児期における看護 １）新生児の生理 ２）新生児のアセスメント ３）新生児の看護（新生児の観察　沐浴） 演習（２Ｈ） ６．新生児の異常と看護 １）新生児仮死 ２）低出生体重児 ３）高ビリルビン血症
１０Ｈ	３．産褥期における看護 １）産褥経過 ２）褥婦のアセスメント ３）褥婦と家族の看護 ４）施設退院後の看護 ５）帝王切開術後の看護 ４．産褥の異常と看護 １）子宮復古不全 ２）産褥期の発熱 ３）乳房トラブル ４）育児に困難さをかかえる 母親への看護 ５）児を亡くした褥婦・家族への看護	試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　専門Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論　（医学書院）

専門分野－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅲ （事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	母性の対象の特徴を踏まえた看護方法(ウエルネス看護) を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ 試験１Ｈ	《事例展開》　初産婦　：　正常妊娠・分娩・産褥経過 新生児　：　正常経過 １．ウェルネス看護診断 ２．母性看護学における事例展開の学習の視点 １）妊娠、分娩、産褥の生理的変化 ２）新生児の生理的変化 ３）母子相互作用 ４）家族および社会のサポート体制 ３．情報の収集と整理 １）妊娠経過記録 ２）分娩のまとめ ３）新生児経過記録 ４）褥婦記録 ４．アセスメント ５．看護上の問題の明確化 ６．看護上の問題の優先順位 ７．看護計画 ８．帝王切開を受けた褥婦の看護						
成績評価方法	課題、筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	系看　専門Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論　（医学書院） 系看　専門Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論　（医学書院） ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程　（医歯薬出版）						

専門分野―母性看護学

授業科目	母性看護学実習	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	１．女性の一生を通じた健康の保持・増進をめざした看護が理解できる。 ２．妊娠・分娩・産褥各期にある対象及び新生児の特徴を理解し、正常な経過にむけての看護が実践できる能力を養う。						

学習活動	内容
１．妊婦の健診に付き添い、妊婦健診の実際を知ることや、受け持ち褥婦の妊娠経過を知ることで、妊婦の生理的変化と看護を理解する。	１．妊娠週数に伴う妊婦の生理的変化と検査 （体重、血圧、尿検査、子宮底長、腹囲、 胎位、 超音波所見（CRL・BPD・FL・EFWL）、内診所見、血液検査、膣分泌物検査） ２．妊娠経過の正常・異常（母体・胎児の経過） ３．保健指導（体重増加、妊娠高血圧症候群、貧血等） ４．妊娠経過に伴う心理・社会的的変化
２．分娩見学や分娩体験、カンファレンスで話し合うこと、受け持ち褥婦の分娩経過を知ることで、産婦の分娩経過と看護を理解する。	１．分娩進行と胎児の状態（子宮口開大、陣痛の間欠・発作時間、胎児心音） ２．分娩進行を促すための援助（体位、排泄、活動、休息） ３．陣痛や苦痛を和らげるための援助 （補助動作、マッサージ、呼吸法、体位、環境、心理面） ４．日常生活への援助（食事、休息、清潔） ５．分娩の正常・異常（分娩経過、分娩後の母体、胎児（新生児）、胎児付属物） ６．産婦の心理的変化
３-１．全身復古、子宮復古を促進する。 ３-２．乳汁分泌、授乳行動を促進する。 ３-３．保健指導の場に参加し、母子関係の成立を促進する。	１．既往妊娠、分娩、産褥歴 ２．退行性変化（子宮、悪露の変化、全身の変化） ３．進行性変化（乳房の変化、乳汁分泌の経過） ４．退行性変化・進行性変化に影響する要因 （妊娠経過、分娩経過、ホルモンの変化、栄養、排泄、活動、睡眠・休息、自己概念、新生児の状態） ５．家族構成、退院後の環境、サポート体制 ６．社会資源、諸制度の活用 ７．褥婦の認識と反応 ８．育児技術習得状況、愛着形成と影響因子 ９．褥婦のありのまま、強み（できているところ、よいところ）に着目した目標および計画 （異常を正常に、正常をより正常に経過させる、自己管理） 10．個別性のある具体策 11．子宮復古促進への援助 12．乳汁分泌促進への援助 13．母子関係を成立させるための援助 14．安全、安楽に配慮した援助 15．プライバシーに配慮した援助 16．実施前の褥婦、新生児の状況確認 17．実施のための必要な調整、判断 18．実施した看護、対象の反応、目標に照らし合わせた評価 19．必要な計画の修正、追加 20．事実に基づいた判断、時宜を得た報告

学習活動	内容
4．新生児の状態観察・沐浴等の必要なケアを実施し、胎外環境への適応を助ける。	1．V/S、体重の増減、哺乳量・内容、吸啜力、排泄（回数、性状）、黄疸、皮膚の状態、臍、活気、反射、生後日数、経時的変化 2．安全・安楽、原理・原則をふまえた実施 （V/S測定、沐浴、おむつ交換、授乳、環境調整、感染予防） 3．実施した内容、新生児の反応に基づいた正常・異常の判断、時宜を得た報告
5.母性看護における継続看護の実際について知り、母性看護における継続看護の必要性を考える。	1．妊婦健診、母親教室、助産師外来 2．分娩（入院時） 3．電話訪問、２週間健診、１ヵ月健診、退院後の生活環境・サポート体制 4．社会資源
6．対象の思い、対象や家族に対するスタッフや自己の関わりについて振り返り、自己の母性観・父性観・看護観について述べる。	1．分娩見学等の母性看護学実習における経験 2．受け持ちケースとの関わり 3．スタッフの関わり
7．婦人科・産科外来で看護師とともに行動し、女性のライフサイクルステージ各期の健康問題と看護の実際を知る。	1．婦人科外来、産科外来の特徴 2．女性のライフサイクルステージ各期の健康問題 （思春期・性成熟期・更年期・老年期）、治療・看護の特徴 3．婦人科外来、産科外来における看護師の役割
成績評価方法	臨地実習の評価要領および母性看護学実習評価基準に準ずる

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学概論Ⅰ （心の健康）	担当教員	松井　麻美	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	１．人間の心の構造と機能について理解する。 ２．心の健康を保持増進するための看護について理解する。						

時　間	学　習　内　容
２Ｈ	１．精神看護の対象と役割 １）精神看護の目的 ２）精神看護の対象 ３）精神看護の役割 ４）精神看護の動向と課題
２Ｈ	２．心の健康とは １）心の健康とその考え方 ２）心の健康維持
４Ｈ	３．心の発達・人格の成熟 １）エリクソンの発達論 ２）自我の防衛機制 ３）欲求と適応
２Ｈ	４．人間の性と健康 １）フロイトの発達論 ２）人間のライフサイクルと性の発達
４Ｈ	５．治療的関係形成 １）援助的自己活用 ２）コミュニケーションスキル ３）患者－看護師関係の発展過程
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）
参考文献他	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　（メディカ出版）

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学概論Ⅱ （危機・保健活動）	担当 教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					

学習目標	１．人間の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機に対する看護について理解する。 ２．精神保健医療福祉の歴史と法制度の変遷について理解する。 ３．精神に障害をもつ患者への地域精神保健活動について理解する。
時　間	学　習　内　容
１５Ｈ	１．危機理論とストレス理論 １）危機理論 ２）ストレス理論 ２．現代社会とこころ １）家庭 ２）学校 ３）職場 ４）地域社会 ３．ストレスに対する反応 １）身体的疾患をもつ患者の心の健康 ２）患者家族の心の健康 ３）災害における心の健康 ４）ストレスと心の健康
１４Ｈ	４．精神保健医療福祉の歴史と現状 １）精神保健医療福祉の歴史 ２）精神保健医療福祉の法制度 ５．地域精神保健活動 １）精神障害者のケアマネジメント ２）セルフヘルプとソーシャルサポート ６．看護の倫理と人権擁護 １）精神科医療におけるアドボカシーの必要性 ２）地域生活における権利擁護
試験１Ｈ	

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　（メディカ出版）

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅰ （健康障害と看護）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．精神症状のとらえ方と主な疾患、検査、治療について理解できる。 ２．精神に障害をもつ対象に対する看護を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１５Ｈ	１．精神症状と精神疾患 １）精神疾患総論 ２）自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ） ３）統合失調症 ４）抑うつ障害と双極性障害 ５）不安障害 ６）強迫性障害（ＯＣＤ） ７）ストレス因関連障害 ８）解離性障害 ９）身体症状症および関連症 １０）摂食障害 １１）睡眠－覚醒障害 １２）物質関連障害 １３）神経認知障害（認知症） １４）パーソナリティ障害 １５）身体疾患と精神症状 ２．検査 １）心理検査 ２）知能検査 ３）性格検査 ４）脳波検査 ３．治療 １）薬物療法 ２）精神療法 ３）リハビリテーション療法 （精神科作業療法（ＯＴ）、ＳＳＴ） ４）電気けいれん療法（ECT）	１４Ｈ	４．主要症状と状態の看護 １）幻覚妄想状態にある患者の看護 ２）拒絶状態にある患者の看護 ３）自閉傾向にある患者の看護 ４）自傷、自殺企図のある患者の看護 ５）不安、不眠状態にある患者の看護 ６）躁状態にある患者の看護 ７）抑うつ状態にある患者の看護 ５．検査、治療を受ける患者の看護 ６．患者理解とコミュニケーション ７．精神科看護師の役割と機能 ８．入院環境と治療的アプローチ			
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　（メディカ出版）						

専門分野－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ （事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	精神に障害のある対象の看護の方法を理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１０Ｈ	１．事例に学ぶ看護の実際（55歳、女性、慢性期にある統合失調症看護の実際） 《事例展開》統合失調症で無為自閉傾向にある患者 １）精神事例展開の学習の視点 ２）統合失調症患者（慢性期）における看護の視点 ３）アセスメント ４）看護上の問題の明確化 ５）看護上の問題の優先順位 ６）看護計画						
２Ｈ	２．統合失調症（急性期）における看護の実際						
２Ｈ	３．双極性障害における看護の実際						
試験１Ｈ							
成績評価方法	課題、終了時試験 （授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本　（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　（メディカ出版）						

専門分野―精神看護学

授業科目	精神看護学実習	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	精神障害のある対象および家族を理解し、精神の健康回復および社会復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。						

学習活動	内容
１．生育歴や生活歴を通して精神に障害を持つ対象を知る。	１．現病歴 ２．生育歴 ３．入院前の生活状況・生活習慣 ４．家族構成と家族歴 ５．入院から受け持つまでの経過 ６．家族状況・関係 ７．病気による精神機能の変化 　１）現在の精神症状 　２）現実検討力、病識 ８．精神科における治療 　（薬物・精神・社会） ９．治療上の規制・制限制限 10．退院後の生活状況 11．経済的影響 12．セルフケア能力 13．コミュニケーション能力、疎通性の障害 14．リハビリテーション内容 15．サポート体制
２．作業療法や、病棟行事を共に過ごし、患者の状況に応じた日常生活援助を行う。	１．セルフケア看護モデル ２．レジリエンス ３．アドボカシー ４．社会的相互作用 　１）対人関係の維持、拡大 　２）信頼関係を結ぶことの意味 ５．コーピング ６．ADL IADL ７．発達段階の特徴 ９．生活習慣・生活様式 10．治療的コミュニケーションの活用 11．言語的メッセージと非言語的メッセージ 12．自分の感じた気持ちの言語化 13．安全・安楽・経済性 14．創意工夫 15．適切な資源の活用 16．実施したことや対象の反応 17．判断 18．時宜を得た報告
３．患者との関わりを通して患者-看護師関係について振り返る。	１．患者-看護師関係 　ペプロウ、トラベルビー ２．プロセスレコード 　１）患者に生じている感情の変化 　２）自己に生じている感情の変化 　３）自分の感じた気持ちの言語化 ３．家族関係・生活背景との関連 ４．危機的状況の対処としての反応 ５．対人関係能力 ６．治療的コミュニケーション

学習活動	内容
4．病院・病棟見学を通して精神科の特徴や患者のおかれている現状を知る。	1．精神医療の歴史的変遷 2．精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護 3．精神科病棟の特殊性 1）病棟の構造の特徴 閉鎖病棟・施錠・保護室 2）一般病棟との違いとその理由 3）安全管理の特殊性 危険物管理 構造上の工夫 人員確認 行動制限の周知 包括的暴力防止プログラム（CVPPP） 緊急時のシステム 4）入院患者の概要 年齢・性別・疾患・入院形態・在院日数 5）病棟の日課 4．障害者総合支援法 5．その他関連法規 6．継続看護 7．チーム医療 8．社会資源とその活用の実際 法的資源・物的資源・人的資源 9．アドボカシー 10．リカバリー
5．退院カンファレンスへの参加、グループホームの見学などを通して、対象に必要な多職種連携や社会資源について理解する。	1．精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護 2．障害者総合支援法 3．継続看護 4．地域包括支援 5．成年後見人制度 6．リカバリー
成績評価方法	臨地実習の評価要領・精神看護学実習評価基準に準ずる

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域と暮らし	担当教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		１年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	人々が暮らす地域について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１５Ｈ	１．地域とは ２．地域アセスメントとその意義 ３．地域アセスメントの実施（演習：グループワーク） １）地域の特徴について ２）対象の視点で見た地域の特徴 （１）小ども （２）成人 （３）高齢者 （４）母子 （５）障がい者 ３）地域の課題について（強みと弱み） ４）発表						
成績評価方法	課題、発表内容、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア　在宅看護論①　（メディカ出版）						

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	家族看護	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．家族という集団がもつ特徴について理解する。 ２．家族を看護の対象ととらえ、家族を支援する方法について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ 試験１Ｈ	１．家族看護とは １）家族看護の特徴と理念 （１）家族看護の必要性 （２）家族看護の発展と変遷 （３）家族看護の特徴 （４）家族看護の理念 ２）家族看護の実践の場面 （１）家族員が疾患や障がいをもつ家族 （２）ライフサイクルと家族 （３）コミュニティと家族 ２．家族看護の対象理解 １）家族とは ２）家族構造 ３）家族機能 ４）現代の家族とその課題 ３．家族看護を支える理論と介入法 １）家族を理解するための理論 （１）家族発達理論 （２）家族システム理論 ２）家族の変化を把握するための理論　（家族ストレス対処理論） ３）家族に変化をもたらすための介入 （１）家族療法 （２）家族を支える介入 ４．家族看護の実際 １）病気の急変に直面している対象の家族 ２）長期にわたり病と付き合っている対象の家族 ３）終末期を迎える対象の家族						
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	系看　家族看護学　（医学書院）						

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護概論 （地域包括ケアシステムの中の看護）	担当教員	湧口　明子 佐々木 久栄	単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		１年次・後期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．地域・在宅看護の基盤となる概念を理解する。 ２．地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
２９Ｈ	１．地域包括ケアシステムにおける在宅看護 １）地域包括ケアシステム （１）地域包括ケアシステムとは （２）生活の場に応じた看護とサービス提供機関 （３）地域包括支援センター ２）療養の場の移行に伴う看護 ３）地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 ４）在宅看護におけるケースマネジメント / ケアマネジメント ２．在宅看護の概念 １）在宅看護の背景 ２）在宅看護の基盤 ３．在宅療養者と家族の支援 １）在宅看護の対象者 ２）在宅療養の場における家族の特徴 ３）在宅療養者の家族への看護 ４．地域療養を支える制度 １）医療保険制度 ２）介護保険制度 ３）後期高齢者医療制度 ５．在宅療養を支える訪問看護 １）訪問看護の特徴 ２）在宅ケアを支える訪問看護ステーション ３）訪問看護サービスの展開 ４）訪問看護の記録 ５）訪問看護における多職種・多機関の連携 ６．在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア　地域・在宅看護論①　（メディカ出版）						

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論Ⅰ （地域の人々の健康を守る看護）	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	地域の人々の健康の保持増進・疾病の予防に向けた看護について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１５Ｈ	１．ヘルスプロモーションと看護 １）健康行動に必要な理論 ２）健康課題（問題）とヘルスプロモーション （１）生活習慣病 メタボリックシンドローム（肥満、高血圧、高血糖、脂質異常症など） （２）悪性新生物 （３）ストレス ３）健康の保持増進のための支援 （１）ハイリスクアプローチ ２．地域で暮らす人々へのヘルスプロモーション １）小児 ２）成人 ３）精神 ４）高齢者 （１）高齢者の暮らしを支える自助・互助 介護予防、認知症予防 事例検討						
成績評価方法	課題、レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	成人看護学①　成人看護学概論　（メヂカルフレンド社） 成人看護学①　成人保健　（メヂカルフレンド社） 系看　専門Ⅱ　老年看護学　（医学書院）						

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論Ⅱ （療養生活を支える看護）	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．生活の場における訪問看護技術について理解する。 ２．医療管理を必要とする療養者の看護について理解する。 ３．療養者の状態に応じた看護の方法について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
４Ｈ	１．生活の場における訪問看護技術 １）訪問看護における留意点 ２）訪問マナーの基本 ３）訪問マナーの実際　　演習（２Ｈ）						
９Ｈ	２．日常生活を支える看護技術 １）在宅療養の場における食生活の特徴と援助のポイント ２）在宅療養の場における排泄の特徴と援助のポイント ３）在宅療養の場における清潔援助の特徴とポイント ４）在宅療養の場における移動・移乗技術の特徴と援助のポイント （１）住環境のアセスメント （２）住環境の整備に活用できる社会資源（住宅改修・福祉用具） ５）在宅療養の場における援助の実際　　演習（３Ｈ） （１）清潔援助　　入浴介助・洗髪 （２）排泄の援助　　ストマ管理						
１０Ｈ	３．療養生活を支える看護技術（医療ケア） １）在宅酸素療法（ＨＯＴ）を必要とする療養者の看護 ２）在宅人工呼吸療法・非侵襲的陽圧換気療法を必要とする療養者の看護 ３）在宅中心静脈栄養法を必要とする療養者の看護 ４）尿道留置カテーテルを挿入されている療養者の看護 ５）人工肛門・尿管皮膚ろうの管理が必要な療養者の看護 ６）褥瘡の予防とケアが必要な療養者の看護						
６Ｈ	４．在宅療養における対象に応じた看護 １）様々な状態にある療養者の看護 難病（ALS・パーキンソン病）、認知症高齢者、小児の疾患、精神疾患など ２）ターミナル期にある療養者への看護						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術　地域・在宅看護論②　（メディカ出版）						

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護支援論Ⅲ （事例展開）	担当 教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	終末期にある療養者と家族の療養生活を支える看護の方法について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１４Ｈ	≪事例展開≫　終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開 １．事例展開の学習の視点 事例紹介 ２．療養者の看護の視点 ３．アセスメント ４．看護上の問題の明確化 ５．社会資源の活用とそれぞれの連携（生活関連図） ６．看護計画						
試験１Ｈ							
成績評価方法	課題、筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領）						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア　地域・在宅看護論①　（メディカ出版） 在宅療養を支える技術　地域・在宅看護論②　（メディカ出版）						

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ （健康と生活の支援）	担当教員		単位数	1	時間数	４０
				受講年次・時期		２年次・前期	
授業形式	臨地実習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目的	１．地域で暮らす人々の健康と生活の支援について理解する。 ２．地域で暮らす人々の健康と生活支援に必要な保健・医療・福祉チームの連携と看護師の役割について理解する。						

学習活動	内容
１．地域の事業に参加し、人々の健康と安心した暮らしを支えるための支援について知る。	１．地域共生社会 ２．地域包括ケアシステム ３．地域で暮らす人々 ４．地域包括支援センターの役割と機能 ５．社会福祉協議会の役割と機能 ６．各種保険・法律・制度 （介護保険法、医療保険法、社会福祉法等） ７．社会福祉協議会の事業に参加 ８．地域福祉支援活動 ９．生活相談支援　ボランティア支援 10．高齢者福祉・障がい者福祉 11．生活福祉、生活保護 12．医療・健康 13．地域包括支援センターの事業に参加 14．高齢者の暮らし 15．自助・互助・共助・公助 16．介護予防、自立支援 17．暮らしの相談 18．地域づくり・市民活動
２．地域の事業に参加し、人々の健康と安心した暮らしを支えるために必要な多職種の役割と連携の実際について知る。	１．地域包括ケアシステムにおける多機関、多職種の役割 ２．地域包括ケアシステムにおける多機関、多職種の連携・協働 ３．療養の場の拡大・多様化 ４．多職種による情報の共有・連絡方法 ５．地域の社会資源 ６．ケアマネジメント
成績評価方法	臨地実習の評価要領、在宅看護論実習評価基準に準ずる。

専門分野―地域・在宅看護論

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ （ヘルスプロモーション・ 在宅療養者への看護）	担当教員		単位数	2	時間数	８０
				受講年次・時期		３年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目的	１．地域で暮らす人々の健康支援について理解する。 ２．在宅で生活する療養者とその家族の療養生活を支える看護について理解し、療養生活に応じた看護が実施できる。						

学習活動	内容	
１．保健センターにおける事業に参加し、地域で暮らす人々の健康支援の方法について知る。	１．地域社会 ２．地域特性 ３．地域保健の対象 ４．地域保健活動の法的根拠 ５．市町村保健センター事業に参加 １）健康相談 ２）保健指導 ３）健康教室 ４）健康診査	６．地域における健康課題 ７．健康の保持・増進・予防のための看護 ８．地域で暮らす人々のヘルスプロモーション ９．第１次、第２次、第３次予防 10．ハイリスクアプローチ （生活習慣病予防）
２．訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族の健康状態と生活について理解する。	１．現病歴 ２．健康状態 ３．身体の状況・ADL ４．障害高齢者の日常生活自立度判定基準 ５．認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 ６．訪問看護指示書内容 ７．訪問看護計画書内容 ８．ケアプラン内容 ９．生活歴・生活習慣・IADL 10．生活者の視点	11．自立・自律支援 12．その人らしさ・QOL 13．家族構成・家族のサポート体制 14．介護度・介護の状況・介護力 15．介護者の健康状態・生活状況 16．家族の地域・家庭内における役割 17．療養・介護指導 18．療養者の意向・思い 19．介護者の意向・思い 20．住環境・地域環境 21．社会資源の活用状況
３．訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族に必要な援助を実施する。	１．在宅療養者と家族に対する援助の方法 ２．在宅療養者と家族に対する援助の目的の設定 ３．生活リズムに合わせた援助の工夫 ４．安全・安楽・自立性 ５．家庭内にある物品の活用・創意工夫・経済性 ６．在宅療養者と家族の希望	７．家族の介護力 ８．実施のための必要な調整・判断 ９．生活様式・生活習慣の尊重 10．共感的・受容的態度 11．在宅療養者、家族の意向・思い 12．権利擁護 13．訪問のマナー・身だしなみ・挨拶・言葉遣い

学習活動	内容
４．地域で暮らす人々に必要な社会資源と多職種の連携・協働について理解する。	１．在宅看護にかかわる法令 ２．訪問看護制度 ３．訪問看護サービスの提供方法と提供内容 ４．社会資源の活用状況 ５．在宅療養に関係する職種と関係機関 ６．関係機関との連絡方法 ７．継続看護 ８．地域包括ケアシステム ９．住宅改修・福祉用具の活用
５．地域・在宅看護における看護職の果たす役割について理解する。	１．訪問看護ステーションのオリエンテーションに参加 ２．地域包括ケアシステムの中における看護師の役割 ３．療養の場の多様化と多職種連携 ４．施設内看護と在宅看護の特徴と違い ５．施設内看護と在宅看護の連携方法 ６．継続看護 ７．自立・自律支援 ８．在宅療養者と家族の自己決定支援 ９．その人らしさ・QOL
成績評価方法	臨地実習の評価要領、在宅看護論実習評価基準に準ずる。

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	看護管理・国際看護	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講　義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．看護の動向を知り、看護のマネジメントができる基礎的知識を理解する。 ２．世界の健康問題と課題について知り、国際社会における看護の役割について理解する。						

時　間	学　習　内　容	時　間	学　習　内　容
４Ｈ	１．看護の動向 １）看護制度 ２）看護行政	１０Ｈ	１．国際看護とは １）国際看護の定義 ２）グローバル化の影響 ３）看護職者に求められる グローバルな視点
５Ｈ	２．看護とマネジメント １）看護管理、マネジメントとは ２）看護ケアのマネジメント ・患者の権利 ・倫理的配慮 ・安全管理 ・多職種との連携・協働 ・日常業務のマネジメント		２．世界の健康問題の現状 ３．国際協力のしくみ ４．グローバルヘルス １）インターナショナルヘルスから グローバルヘルスへ ２）プライマリヘルスケアと ヘルスプロモーション
１０Ｈ	３）看護サービスのマネジメント ・看護の組織化 ・看護単位の機能と特徴 ・看護ケア提供システム ・人材、施設、物品、 情報のマネジメント ・組織におけるリスクマネジメント ・サービスの評価 ４）マネジメントに必要な知識と技術 ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整 ・組織と個人 ５）看護職のキャリアマネジメント ・看護の教育体制 ・看護職のキャリア形成		３）人間の安全保障 ４）ミレニアム開発目標（MDGS） ５）持続可能な開発目標（SDGS） ６）ユニバーサルヘルスカバレッジ ５．国際看護の対象 １）災害・紛争被害者 ２）開発途上国に住む人々 ３）在留外国人 ４）在外日本人 ５）帰国日本人 ６．文化を考慮した看護 ７．国際看護活動の実際 （国際救援と開発協力）
試験１Ｈ			

成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）
参考文献他	系看　統合分野　看護の統合と実践（１）　看護管理　（医学書院） 系看　統合分野　災害看護学・国際看護学　（医学書院）

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	医療安全	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．看護・医療事故に関する基礎的知識を身につけ、事故を予防するための方法について理解する。						
時　間	学　習　内　容						
１１Ｈ	１．医療を取り巻く社会の状況 ２．ヒューマンエラー ３．わが国の医療安全管理 ４．医療事故の事例分析（演習） ５．看護におけるリスクマネジメント ６．コンフリクトマネジメント ７．医療安全管理の課題 ８．感染予防対策						
３Ｈ	９．安全管理、セーフティ活動 ＫＹＴ（危険予知トレーニング）　演習（２Ｈ）						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　統合分野　看護の統合と実践（２）　医療安全　（医学書院）						

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	災害看護	担当教員		単位数	1	時間数	１５
				受講年次・時期		２年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	１．災害看護活動が行える基礎的知識を理解する。 ２．救命救急処置について理解し、実践できる基礎的能力を習得する。						
時　間	学　習　内　容						
７Ｈ	１．災害医療の基礎知識 ２．災害看護の基礎知識 ３．災害サイクルに応じた看護活動 ４．被災者特性に応じた災害看護 ５．災害とこころのケア						
５Ｈ	６．災害看護活動の実際　演習（３Ｈ）　＊学外災害訓練参加						
２Ｈ	７．救命救急処置技術　演習（２Ｈ） １）意識レベルの把握 ２）気道確保 ３）人工呼吸 ４）胸骨圧迫 ５）AEDによる除細動 ６）止血法						
試験１Ｈ							
成績評価方法	筆記試験・レポート （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　統合分野　看護の統合と実践（３）　災害看護学・国際看護学　（医学書院）						

専門分野－看護の統合と実践

授業科目	臨床看護実践	担当教員		単位数	1	時間数	３０
				受講年次・時期		３年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験	看護師としての臨床経験あり	必修・選択別		必修	
学習目標	１．状況に応じた看護ができる基礎的な能力を習得する。 ２．複数の患者の状況に応じて看護の優先順位を考え、実践し評価できる基礎的な能力を習得できる。						
時　間	学　習　内　容						
１０Ｈ	１．健康状態や治療経過をふまえた対象理解 ・患者の課題の明確化 ・訪室の目的 ２．臨床判断に基づく看護援助の実践　演習（６Ｈ） ・患者の観察、状況判断、援助の選択 ・リスクの予測、信頼関係の形成 ３．学習プロセスの振り返り ・自己評価 ・自己課題の明確化						
２０Ｈ	４．看護の優先順位の判断と行動スケジュール １）看護の優先順位とは ２）行動スケジュールとは ３）複数の患者の看護計画 ４）行動スケジュールの調整 ５）多職種連携 ６）看護の評価 ５．複数の患者の状況に応じて優先順位を考えた実践 １）２名の患者の援助　シミュレーション（４Ｈ） ２）多重課題の援助　シミュレーション（４Ｈ）						
成績評価方法	課題 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	系看　統合分野　看護の統合と実践（１）看護管理　（医学書院） 系看　統合分野　看護の統合と実践（２）医療安全　（医学書院）						

専門分野―看護の統合と実践

授業科目	統合実習	担当教員		単位数	3	時間数	１２０
				受講年次・時期		３年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	１．医療組織におけるチーム医療の実際を知り、多職種との連携・協調による患者支援の方法と看護師の役割と責任について理解する。 ２．看護チームの一員の体験、複数患者の受け持ちを通して、看護実践力を養う。 ３．看護実践を通して、専門職としての役割と責任を理解する。						

学習活動	内容
１．保健・医療・福祉チームによる活動を通して、多職種連携における看護師の活動の実際を知る。	１．組織での位置づけ ２．チーム医療活動（多職種連携）の実際
２．多職種連携の必要性を理解し、患者中心の医療やケアが提供できるために必要な看護師の役割と責任を理解する。	１．関連法規と社会資源 ２．保健・医療・福祉の連携 ３．その人らしく生きることへの患者・家族支援 ４．継続看護・継続医療
３．複数の患者を受け持ち、状況を判断し、看護の優先順位、時間管理安全を考慮した看護ができる。	１．患者を受け持つために必要な情報収集・管理 ２．1日の行動計画の立て方と業務時間管理 ３．患者の状況に合わせた臨床判断と実施（倫理的判断を含む）
４．看護チームの中で、互いに協働して業務を実施し、チームの一員としての役割と責任を理解する。	１．師長の役割と責任 ２．リーダーの役割と責任 ３．メンバーの役割と責任 ４．看護専門職としての自覚、自己の課題
５．夜間の勤務体験を通して、看護師の業務内容や患者の生活状況を知る。	１．夜間勤務における看護師の業務内容 ２．夜間帯の患者の生活状況
６．申し送りに参加し、継続看護のための体制や連携の実際を理解する。	１．チームにおける伝達の重要性・情報交換の意義 ２．２４時間の継続看護 ３．連携の実際 ４．夜間の病棟の管理体制・業務分担
成績評価方法	臨地実習の評価要領・統合実習評価基準に準ずる